龍谷大学 履修要項

2026年度 国際学部

最終更新日： 2026年3月10日

2026年度入学生 | 国際学部

2026年度入学生 国際学部 メニュー

「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」 >

- 国際学部の教育理念・目的 >
- グローバルスタディーズ学科 >
  卒業認定・学位授与の方針［学士（グローバルスタディーズ）］ > 教育課程の編成・実施の方針 >
- 国際文化学科 >
  卒業認定・学位授与の方針［学士（国際文化学）］ > 教育課程編成・実施の方針 >
- 文化の多様性に接する学内環境の整備 >

国際学部の学修 >

- 卒業要件単位および学士号 >
  ＜卒業の要件＞ >
- 先修制＜学部専攻科目＞ >
  ◆グローバルスタディーズ学科 > ◆国際文化学科 >
- 科目ナンバリング >
- カリキュラム概念図 >
  グローバルスタディーズ学科 > 国際文化学科 >
- スーパーバイザー制度（グローバルスタディーズ学科） >
- メンター制度（グローバルスタディーズ学科） >
- 国際ツーリズムプログラム（国際文化学科） >

グローバルスタディーズ学科の教育課程 >

- 【1】科目区分と卒業に必要な単位数 >
  1．学科外国語科目（卒業要件：16単位） > 2．教養教育科目（卒業要件：4単位） >
  3．学科基礎科目（卒業要件：16単位） > 4．学科専攻科目（卒業要件：44単位） > 5．留学科目（卒業要件：22単位） >
  6．国際学部関連科目（卒業要件：12単位） > 7．フリーゾーン（卒業要件：10単位） >
  8．単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、本願寺派教師資格課程など >
- 【2】3つの学問領域 >
  1．3つの基本領域 > 2．複合領域 > 3．学問領域構成図 >

- 【3】キャリア教育とキャリアデザイニング >
  1．想定する進路 > 2．キャリア科目 >
- 【4】履修方法 >
  1．学科外国語科目の履修方法 > 2．英語運用能力測定テストの基準スコア提出 > 3．再履修 > 4．開設科目一覧 >
- 【5】卒業の要件 >
  1．所定在学年数 > 2．所定単位の修得 > 3．1セメスター以上の英語圏への留学 >
  4．英語運用能力測定テストの基準スコア提出 >
- 【6】演習および卒業論文の履修 >
  1．プロジェクト演習（必修科目） > 2．演習（ゼミ）（必修科目） > 3．卒業論文（選択科目） >

国際文化学科の教育課程 >

- 【1】国際文化学科での学びとその流れ >
  1．1年次 > 2．2年次 > 3．3年次および4年次 >
- 【2】科目区分と卒業に必要な単位数 >
  1．学科外国語科目（卒業要件：20単位以上） > 2.教養教育科目（卒業要件：18単位以上） >
  3．学科基礎科目（卒業要件：16単位以上） > 4．学科専攻科目（卒業要件：50単位以上） >
  5．フリーゾーン（卒業要件：20単位以上） >
  6．その他（単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、本願寺派教師資格課程など） >
- 【3】国際ツーリズムプログラム（International Tourism Program）について >
  1．制度の概要 > 2．修了要件 >
- 【4】キャリア教育とキャリアデザイニング >
  1．想定する進路 > 2．キャリア科目 > 3．その他 >
- 【5】履修方法・履修上の注意点 >
  1．必修外国語の履修方法 > 2．学科専攻科目の科目群について > 3．国際ツーリズムプログラム（ITP）について >
  4．専門演習および卒論演習について > 5．国際文化Study Projectについて > 6．必修科目の再履修について >
  7．開設科目 >
- 【6】卒業論文・卒業制作 >
  1．執筆および提出について > 2．評価方法および注意事項 >

その他 >

- 国際学部グローバルスタディーズ学科長期留学に係る取扱内規 >
- 留学サポートデスクについて >
- 学生支援・対応の方針（国際学部教務課） >

「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

国際学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。

グローバル化が急速に進展する現代社会は、複雑に入り組んだ国際関係のなかに存在しています。日本やその他の国々においてはますます文化的•社会的な多様性が増え、その中でそれに対応できる能力と柔軟性のある人材が求められています。

グローバルスタディーズ学科

卒業認定・学位授与の方針［学士（グローバルスタディーズ）］

国際学部の「教育理念•目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質•能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

〈国際学部（グローバルスタディーズ学科）の学生に保証する基本的な資質・能力〉

○教養教育科目により保証する資質•能力

●専攻科目により保証する資質•能力

①：建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●グローバルなイシューやコミュニケーションに関する知識をもち、日本語と英語を適切に運用できるとともに、世界の諸事象を複眼的に分析するための知識と方法を修得している。

●社会が必要とする職業観•勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考•判断•表現することができる。

●論理的であると同時に、柔軟な批判的精神をもち、自己の置かれた環境を、歴史的•社会的•地域的•国際的な観点から相対化し、固定観念に捉われることなく考察することができる。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●揺るがない倫理観に基づき、多様な価値観を尊重し、チャレンジ精神と精神的な強さをもって国際的な舞台においてリーダーシップを発揮することができる。

〈学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法〉

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. TOEIC®L&R730点、TOEFL®（550-PBT、80-iBT※）、IELTSTM6.0のいずれかを取得することを必要とする。
   ※TOEFL iBT®についてはTest DateスコアもしくはMy BestTMスコアも卒業要件スコアとして認定する。
4. 1セメスター以上の留学を必要とする。

教育課程の編成・実施の方針

国際学部の教育理念•目的および卒業認定•学位授与の方針に明示した「基本的な資質•能力」をすべての学生が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成•展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるよう学習環境•支援体制を整備する。併せて、国際学部の教育理念•目的を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備する。

〈国際学部（グローバルスタディーズ学科）の教育内容〉

○教養教育科目にかかる教育内容

●専攻科目にかかる教育内容

①：建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想Ａ」•「仏教の思想Ｂ」）を全学必修科目として開講する。

②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系•社会科学系•自然科学系•スポーツ科学系等）を開講する。

●「グローバルスタディーズ」という学問領域を学ぶために必要となる基礎的な知識を修得するため、「グローバルスタディーズＡ～Ｄ」を開講する。

●英語の基礎スキルと実用的スキルを修得するため、1年次に英語集中プログラム（PEPプログラム）を配置する。

●情報収集•分析•発信能力を身につけるため「ITリテラシーＡ•Ｂ」を開講する。

●大学生活において必要な基礎的スキルの修得のために、1年次必修科目として「リサーチ方法論Ａ•Ｂ」を開講する。

●社会が必要とする職業観•勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するため、「キャリア啓発科目」を開設する。

③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考•判断•表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3•第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系•社会科学系•自然科学系•スポーツ科学系等）を開講する。

●専門知識を複数の言語で理解し議論できる能力を養成するために、学科専攻科目のほとんどを英語のみ、または英語日本語併用による講義として開講する。

●講義型科目は「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域に分類して配置し、世界の諸事象を総合的かつ実践的な知識にもとづき分析できる能力の向上を図る。

●また、学年進行に応じて、異なる2領域が重なる科目、さらに3領域が重なる総合的科目を重視するカリキュラムとする。これにより、低年次から複合的な視点での思考や分析に習熟できるようにする。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●グローバルな舞台で活躍し、また国内外の国や地域を問わず通用する揺るがない倫理観を身につけるため、半年以上の長期留学を必修とする。

●社会が必要とする職業観•勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するため、「キャリア形成科目」を開設する。

〈教育方法〉

- 学生が、自らの学修目的や進路希望に応じて各科目の特性や開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう、多様な授業形態（講義•演習•実習など）により科目を開設する。
- 全ての科目は、講義概要、到達目標、講義方法、授業評価の方法、授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

〈学修成果の評価〉

- 学修成果の有無やその内容•水準等を評価するため、科目の特性に応じておおよそ次の4種類の方法のいずれか、または複数を合わせて評価する。
  ① 筆答試験による評価
  ② レポート試験による評価
  ③ 実技試験による評価
  ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- 卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によっておこなう。

国際文化学科

卒業認定・学位授与の方針［学士（国際文化学）］

国際学部の「教育理念•目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質•能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。

〈国際学部（国際文化学科）の学生に保証する基本的な資質・能力〉

○教養教育科目により保証する資質•能力

●専攻科目により保証する資質•能力

①：建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●日本を含む世界の様々な国、地域、宗教等における文化の多様な側面を理解することができる。

●日本語および外国語で書かれた文献資料等を調査し、かつ、批判的に読み解くことができる。

●英語をはじめ、任意の外国語をその文化的背景も含めて学び、かつ、実践的に活用することができる。

●「世界と日本をつなぐ」上で求められる、言語•人文•社会科学にわたる幅広い教養を身につけている。

●社会が必要とする職業観•勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考•判断•表現することができる。

●フィールド調査など実践的な授業や活動を通じて、異なる文化間に生じる諸問題を発見し、解決する上で役立つ実践的な経験を持っている。

●異なる文化の独自性を尊重できると同時に、自らが所属する文化の特質や意義を認識している。

●異なる文化間に内在する課題を発見し、互恵的•建設的な解決策を論理的に導く能力を持っている。

●レポートや卒業論文など、一定の書式に沿って自己の主張をまとめることができる。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●世界の様々な国、地域における言語や文化に対する幅広い関心と、飽くなき探究心を持っている。

●国際的な諸問題と深く関わる世界三大宗教（仏教•キリスト教•イスラーム教）に対する関心を持っている。

●日本社会や日本文化の歴史的な蓄積を理解した上で、現代的な諸課題に対する関心を持っている。

●複雑化、多様化する国際社会の状況を踏まえ、一面的に物事を捉えない視座を持っている。

●自らの所属する文化を常に相対的に眺め、様々な文化を優劣関係で捉えない寛容な精神を持っている。

●常に他者の立場に配慮しながら、主体的に物事に対して思考•判断•行動することができる。

〈学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法〉

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。

教育課程編成・実施の方針

国際学部の教育理念•目的および卒業認定･学位授与の方針に明示した「基本的な資質•能力」をすべての学生が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成•展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるよう学習環境•支援体制を整備する。併せて、国際学部の教育理念•目的を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備する。

〈国際学部（国際文化学科）の教育内容〉

○教養教育科目にかかる教育内容

●専攻科目にかかる教育内容

①：建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1•第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想Ａ」•「仏教の思想Ｂ」）を全学必修科目として開講する。

②：（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1•第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系•社会科学系•自然科学系•スポーツ科学系等）を開講する。

●外国語運用能力を涵養するため、1年次には週5回、2年次には週3回の「学科外国語科目」（英語•中国語•コリア語•フランス語から選択）を開講する。

●2年次から「学科専攻科目」として、学科外国語科目で提供した外国語に加えて、さらに多様な外国語科目（ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語）を配置する。

●大学での学びの基礎を確立するため、「リサーチセミナーⅠ」および「リサーチセミナーⅡ」（各2単位）を1年次に展開する。

●今後の学びにとって重要な学修スキルを身につけるため「調査分析の基礎Ａ•Ｂ」を設ける。

●世界的規模で拡大する観光需要をふまえ、学術•実務の両面から観光と文化について学びを深める「国際ツーリズムプログラム」を1年次から展開する。

●社会が必要とする職業観•勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するため、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

③：（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考•判断•表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3•第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系•社会科学系•自然科学系•スポーツ科学系等）を開講する。

●「世界を学び、私を知る」という学科の理念に基づき、また、国内外の多様な文化を結ぶファシリテーターを育成するため、『比較宗教』、『地域研究』、『人間と共生』、『メディアと社会』、『芸術•表現』の5科目群を設ける。

●各科目群では、学問領域を系統的に学修できるよう、入門的科目等の基礎科目、専攻科目をバランスよく配置してカリキュラムを展開する。

●3年次からは「専門演習Ａ」（必修、2単位）および「専門演習Ｂ」（登録必修、2単位）を開講し、各自の興味あるテーマについての学びを深める。

●4年次に「卒論演習Ａ•Ｂ」（各3単位）または「国際文化Study Project A•B•C•D」（各2単位）を履修し、学びの成果の結実を目指す。これにより、一貫して専任教員の下で専門的かつ体系的な教育を受けることを可能とする。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●留学生を積極的に受け入れ、また、充実したサポート体制の下に学生の海外留学（交換留学および私費留学）を推奨し、語学力向上とともに、授業内外での異文化理解の促進、異文化交流機会の拡充に努める。

●他受講者や社会との関わりを持つことのできる国際または文化をテーマとした実践的な取り組みの機会として、「リサーチセミナーIII」および「海外研修（異文化交流）」（いずれかを選択登録必修、各2単位）を提供する。

〈教育方法〉

- 学生が、自らの学修目的や進路希望に応じて各科目の性格や開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう、多様な授業形態（講義•演習•実習など）により科目を開設する。
- 全ての科目は、講義概要、到達目標、講義方法、授業評価の方法、授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

〈学修成果の評価〉

- 学修成果の有無やその内容•水準等を評価するため、科目の特性に応じておおよそ次の4種類の方法のいずれか、または複数を合わせて評価する。
  ① 筆答試験による評価
  ② レポート試験による評価
  ③ 実技試験による評価
  ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

文化の多様性に接する学内環境の整備

本学部は、教育目標を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備しています。

1. 教員の約3割は海外出身で、日本人教員の多くもバイリンガルです。海外出身教員の出身国•地域は、アメリカ、フランス、ベルギー、スロバキア、ニュージーランド、ロシア、フィリピン、中国、韓国と国際色豊かです。教員と日常的•意識的に接する機会を増やし、国際的な視野を身に付けるよう努めて下さい。
2. 国際学部には多くの外国人留学生が在籍しており、キャンパスにいながらにして国際交流できる好環境にあります。留学生の苦労を理解した上で、積極的にアプローチし、サポートすることは学部内の重要な国際交流になっています。身近なところから国際交流を始めることは、本格的な国際人への道につながります。また、海外からの留学生のために充実した日本語教育を提供し、また大学生活を支える教務課での対応を英語、中国語でも行うなどの事務体制を整えています。
3. 深草学舎 和顔館1Fに設置されている「グローバルコモンズ」において、留学生と交流できるラウンジ、外国語のスキルアップを目指すことができるスタジオや語学学習•各種試験対策ができるスペース（約130席）が整備されています。また、同「グローバルコモンズ」内には国際学部に所属する学生からの留学に関する相談を随時受け付ける「国際学部 留学サポートデスク」が設置され、専門のアドバイザに各種の相談ができる環境です。
4. 本学部では短期留学や長期留学などの留学制度を充実させており、本学部で身に付けた知識やスキルを海外で試し、高めることができます。また留学中に修得した単位を学部の卒業要件単位として認定することができ、4年間での卒業も可能となっています。より実践的な能力を身に付けたいと思っている人は早めに、そして計画的に自分の目的に合った留学形態を考えることができます。
5. 専門科目を中心に多くの科目を英語で開講しており、英語を使って専門分野を学修する機会が提供されています。また、学科間の垣根を越えて、それらの英語開講科目の一部を相互に受講する事ができます。特に将来、英語科教員を目指す学生は、英語による講義を受講することにより英語教育について幅広く考えることが重要です。
6. 専門性を育成する演習の選択肢を多く用意しています。現地調査やフィールドワークにもとづき卒業論文を進めていく演習や、英語で受講し、英語で卒業論文まとめる演習など、さまざまな分野と地域にわたる演習があります。自分の研究スタイルと研究対象を早めに見つけ、有意義な卒業論文に取り組むために、方法論的な授業と知識中心の授業を系統的に履修しましょう。

本学部では以上の環境と共に、外国語科目や演習など、すべての学年で少人数教育を導入し、学生の主体的な参加を可能としています。このようなクラスは、コミュニケーション能力向上の練習の場となります。ただし、国際社会においては、自発的な行動とコミュニケーションが常識となっていますので、学生は自らの積極的な参加が不可欠であることを忘れてはなりません。大学生活では学生自身の積極性が最も重要であるため、こうした本学部独自の環境を大いに利用することを期待します。

国際学部の学修

卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、124単位以上を修得しなければなりません。

＜卒業の要件＞

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

（1）所定在学年数

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。

（2）所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています（詳細は「教育課程の編成方法」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

グローバルスタディーズ学科

科目区分	必要単位数	必修科目			備考•要件
①学科外国語科目	16	英語（Reading）Ⅰ•Ⅱ（4単位）英語（Writing）Ⅰ•Ⅱ（4単位） 英語（Oral Communication）Ⅰ•Ⅱ（4単位）			学科外国語科目（選択）から4単位
②教養教育科目	4	仏教の思想Ａ•Ｂ（4単位）			
③学科基礎科目	16	リサーチ方法論Ａ•Ｂ（4単位） ITリテラシーＡ•Ｂ（4単位） グローバルスタディーズA•B•C•D（8単位）			
④学科専攻科目	44	演習	10単位	プロジェクト演習（2単位） 演習Ⅰ•Ⅱ•Ⅲ•Ⅳ（8単位）	
		専攻基礎	20単位		専攻科目のうち2年次配当の科目
		専攻応用	14単位		【専攻応用】 ※次の科目から6単位以上を修得すること。（選択必修） 「言語教育政策論」 「Global Englishes and Communication」 「Postcolonialism」 「Sustainability Studies」 「ナショナリズム研究」 「安全保障論」
⑤留学科目	22				

⑥国際学部関連科目	12	グローバル・キャリア入門（登録必修2単位）	
⑦フリーゾーン	10		
合計	124		

（注） フリーゾーン•国際学部関連科目について

卒業要件124単位の内、各①～⑥の必要単位を超えた単位数が「フリーゾーン」として認定されます。

なお、②以外は、「フリーゾーン」として認定される前に必要単位を超えた場合、「国際学部関連科目」として、まずは認定されます。

〈参考〉卒業要件とフリーゾーン•国際学部関連科目の流れ



教養教育科目以外の余剰単位は、「国際学部関連科目」認定後に「フリーゾーン」で認定されます。

国際文化学科

科目区分	必要単位数	必修•選択科目
①学科外国語科目	20	1年次：英語週5回または初修外国語週3回＋英語週2回（必修•14単位） 2年次：英語週3回または初修外国語週3回（必修•6単位）
②教養教育科目	18	仏教の思想Ａ•Ｂ（必修•4単位） 教養科目 人文科学系科目（選択必修•2単位） 社会科学系科目（選択必修•2単位） 自然科学系科目（選択必修•2単位） 選択科目（選択•8単位）
③学科基礎科目	16	リサーチセミナーⅠ、リサーチセミナーⅡ（必修•4単位） 選択科目（12単位）
④学科専攻科目	50	・リサーチセミナーⅢまたは海外研修（異文化交流）（選択登録必修2単位） ・専門演習Ａ（必修•2単位） ・専門演習Ｂ（登録必修）で卒業論文執筆適性を見極める。 【専門演習Ｂ合格者】 ・専門演習Ｂ（2単位）、卒論演習Ａ（3単位）、卒論演習Ｂ（3単位）。 【専門演習Ｂ不合格者】 ・国際文化Study Project Ａ～Ｄ（合計8単位）。 ・その他選択科目（40単位以上）
⑤フリーゾーン	20	
合計	124単位以上	

（注）フリーゾーンについて

卒業要件124単位の内、各①～④の必要単位を超えた単位数が「フリーゾーン」として認定されます。

〈参考〉卒業要件とフリーゾーンへの流れ



先修制＜学部専攻科目＞

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。
したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。先修制が設定されている科目は次のとおりです。

◆グローバルスタディーズ学科

科目名	履修要件となる科目名
演習Ⅰ～Ⅳ	リサーチ方法論AまたはB
心理言語学	グローバルスタディーズA
応用言語学	グローバルスタディーズA
言語教育政策論	グローバルスタディーズA
通訳•翻訳研究 A	グローバルスタディーズA
通訳•翻訳研究 B	グローバルスタディーズA
English for Global Studies	グローバルスタディーズA
Global Englishes and Communication	グローバルスタディーズA
Globalization of Education	グローバルスタディーズB
Postcolonialism	グローバルスタディーズC
Sustainability Studies	グローバルスタディーズC
ナショナリズム研究	グローバルスタディーズB
国際政治経済学	グローバルスタディーズB
多国籍企業論	グローバルスタディーズB
安全保障論	グローバルスタディーズB
国際人権論	グローバルスタディーズC
グローバリゼーションとエシックス	グローバルスタディーズC
グローバル市民社会論	グローバルスタディーズC
海外キャリア実践Ⅱ	海外キャリア実践Ⅰ
ペルシア語セミナーⅡ	ペルシア語セミナーⅠ
演習Ⅲ	演習Ⅰ•Ⅱ

◆国際文化学科

【必修外国語・英語】

科目名	履修要件となる科目名
EC Ⅱ-Speaking	EC Ⅰ-Speaking
EC Ⅱ-Writing	EC Ⅰ-Writing
EC Ⅱ-Reading	EC Ⅰ-Reading
ECIII-Speaking	EC Ⅱ-Speaking
ECIII-Writing	EC Ⅱ-Writing
ECIII-Reading	EC Ⅱ-Reading
ECIV-Speaking	ECIII-Speaking
ECIV-Writing	ECIII-Writing
ECIV-Reading	ECIII-Reading
EC Ⅱ-Seminar A	EC Ⅰ-Seminar A
EC Ⅱ-Seminar B	EC Ⅰ-Seminar B

※EC：English Communicationの略

【必修外国語・初修外国語】

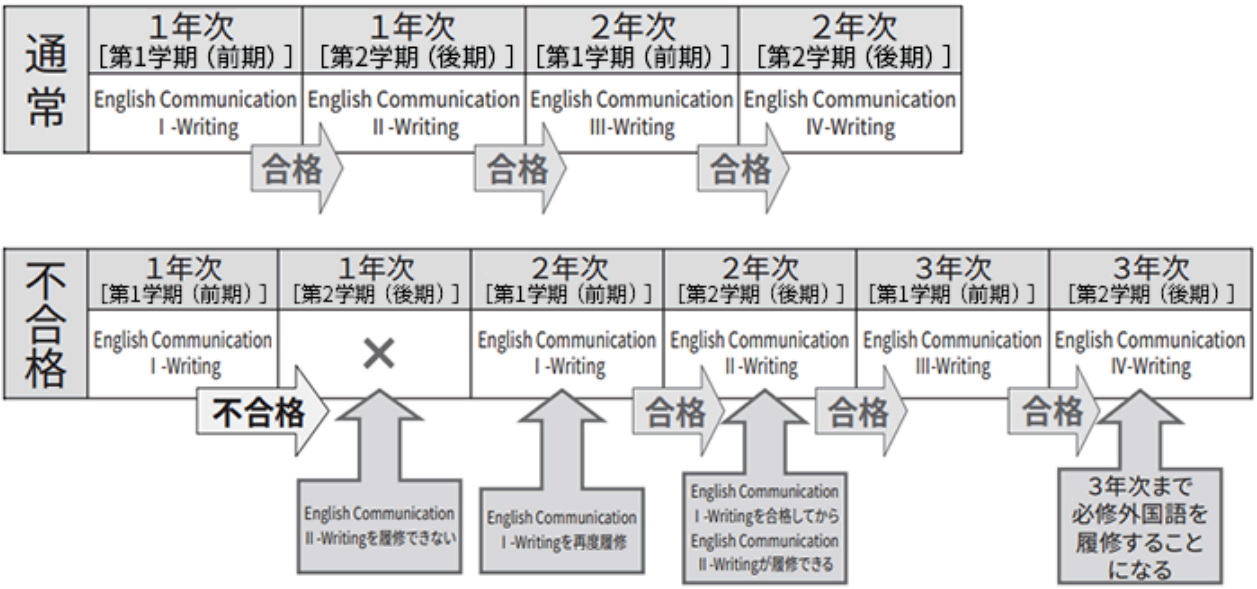
科目名	履修要件となる科目名
外国語Ⅱ	外国語Ⅰ
外国語III	外国語Ⅱ
外国語IV	外国語III

※フランス語・中国語・コリア語・日本語を「外国語」と表記しています。

【学科専攻科目】

科目名	履修要件となる科目名
ペルシア語セミナーⅡ	ペルシア語セミナーⅠ
ロシア語セミナーⅡ・III・IV	ロシア語セミナーⅠ
ポルトガル語セミナーⅡ・III・IV	ポルトガル語セミナーⅠ

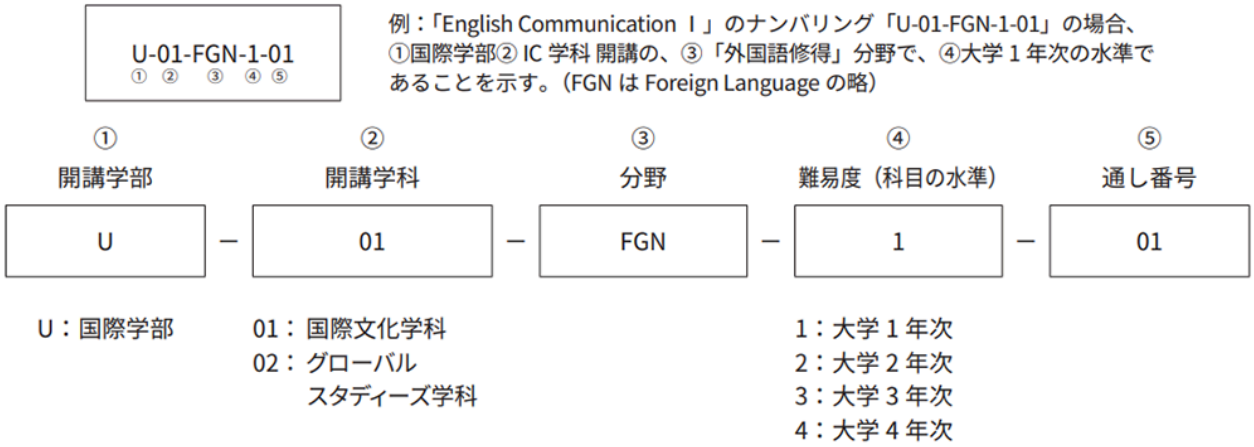
〈参考〉先修制について



科目ナンバリング

龍谷大学におけるナンバリングコード体系

国際学部で開講される授業科目にはナンバリングがされています。ナンバリングとは、科目毎に修得することができる学術分野や、科目のレベルを簡明に表したものであり、順次性のある履修計画を立てることを補助し、体系的な学修に繋げるための指標です。



「③分野」一覧表系

略号	分野名	分野名（日本語）
ARS	Area studies	地域研究
ART	Art studies	芸術学
BAB	Basic biology	基礎生物学
CAE	Career	キャリア開発
CIL	Civil law	民事法学
CUA	Cultural anthropology	文化人類学
ECO	Economics	経済学
ECP	Economic statistics	経済政策

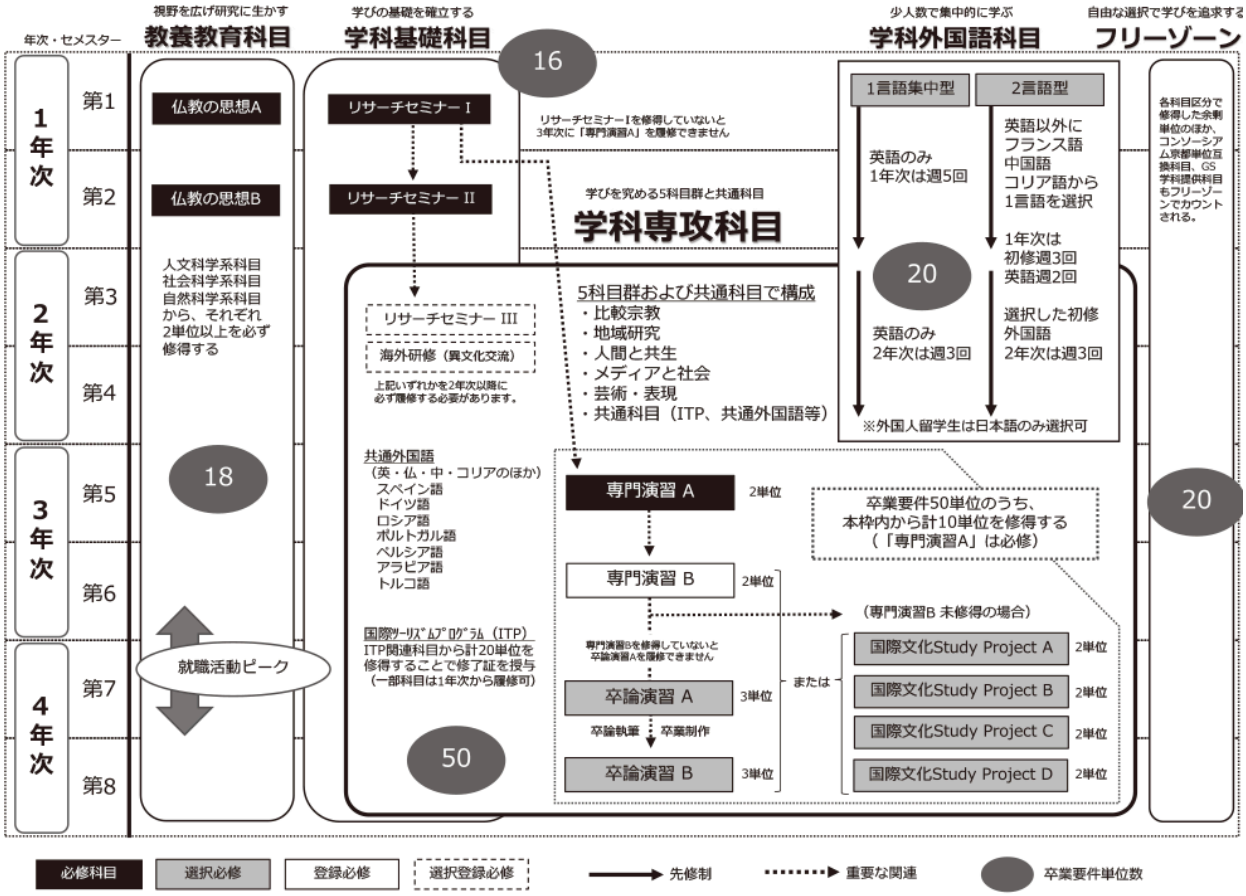
ENL	Engilish linguistics	英語学
ENV	Environmental conservation	環境保全学
ESS	Education on school subjects and activities	教科教育学
FGN	Foreign language	外国語修得
FLE	Foreign language education	外国語教育
GLS	Global studies	グローバルスタディーズ（複合領域）
HIS	History	史学
HIT	History of thought	思想史
HLS	Human life science	生活科学
ICC	Intercultural communication	国際文化学（複合領域）
ILA	International law	国際法学
INR	International relations	国際関係論
JLE	Japanese language education	日本語教育
JLN	Japanese linguistics	日本語学
LIE	Literature in English	英米•英語圏文学
LIN	Linguistics	言語学
LIT	Literature	文学
LTE	literacy	基礎リテラシー科目
PHA	Physical anthropology	自然人類学
PHI	Philosophy	哲学
POL	Politics	政治学
PUL	Public law	公法学
RES	Religious studies	宗教学
SES	Sustainable and environmental system development	環境創成学
SOC	Sociology	社会学
SOE	Sociology of education	教育社会学
SOP	Social psychology	社会心理学
TOU	Tourism	観光学
TPA	Town planning/Architectural planning	都市計画•建築計画

カリキュラム概念図

グローバルスタディーズ学科

学年		1年次生		2年次生		3年次生		4年次生	
英語能力目標値		TOEIC 685 IELTS 5.5		TOEIC 730 IELTS 6.0		TOEIC 800 IELTS 6.5		TOEIC 830 IELTS 6.5	
セメスター		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
外国語（PEP）	必修外国語	・英語（Reading）I ・英語（Writing）I ・英語(Oral Communication) I	・英語（Reading）II ・英語（Writing）II ・英語(Oral Communication) II						
	テスト対策	Basic		Advanced					
		・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Career English	・Career English		
基礎科目		・リサーチ方法論A ・グローバルスタディーズA・B ・ITリテラシーA	・リサーチ方法論B ・グローバルスタディーズC・D ・ITリテラシーB						
教養教育科目		仏教の思想A	仏教の思想B						
留学		・短期語学研修（夏期）	・短期語学研修（春期）	→	→				
専攻科目	①Globalization			・国際関係入門	・グローバル・ヒストリー入門				
	Globalization＋Communication					・通訳・翻訳研究A ・Globalization of Education	・通訳・翻訳研究B		
	②Communication			・Discussion & Debate ・会話分析入門A	・Discussion & Debate ・会話分析入門B	・English for Global Studies	・English for Global Studies		
	Communication＋Ethics			・Introduction to Sociolinguistics	・Introduction to Cultural Anthropology				
	③Ethics				・政治思想概論	・国際人権論	・Postcolonialism		
	Ethics＋Globalization				・グローバル・ガバナンス論		・多国籍企業論 ・グローバル市民社会論		
	①＋②＋③						・Sustainability Studies ・言語教育政策論		
キャリア 海外インターンシップ		グローバル・キャリア入門	キャリア実習・実習指導			海外キャリア実践 I	海外キャリア実践 I・II	海外キャリア実践 II	
演習				・プロジェクト演習	・プロジェクト演習	・演習 I	・演習 II	・演習III	・演習IV
卒論								卒論作成	
メンター制度		Mentee（助言を受ける立場）				→ Mentor（助言する立場）			
スーパーバイザー		リサーチ方法論教員		プロジェクト演習教員 →		演習教員			

国際文化学科



スーパーバイザー制度（グローバルスタディーズ学科）

対象：グローバルスタディーズ学科

スーパーバイザー（Supervisor）とは学修上の相談から留学先の選択まで、グローバルスタディーズ学科で学ぶ上でどんなことでも相談できる担当教員の事です。入学後すぐは1年次に受講する「リサーチ方法論」クラスの担当者がスーパーバイザーとなりますが、2年次はプロジェクト演習担当者、3年次以降は演習の担当者など、担当者は変更となります。

■スーパーバイザーへの相談方法

① アポイントのとり方

基本的には「オフィスアワー」を利用してスーパーバイザーに相談をします。その他、学習ポートフォリオ「manaba」やE-mailで連絡を取ってください。

② 相談内容（一例）

• 留学先の選定

2年次に必修である留学の行き先について。

• 外国語学習

英語の学習方法や、各種テストについて。

• 履修相談

グローバルスタディーズ学科で学ぶにあたり、どのような科目を履修すればよいかという点から卒業論文の進め方まで履修全般について。

• 学生生活全般

キャンパスライフについて。相談内容によっては「なんでも相談室」や、「こころの相談室」（共に深草学舎4号館1F）」の利用方法について助言します。

メンター制度（グローバルスタディーズ学科）

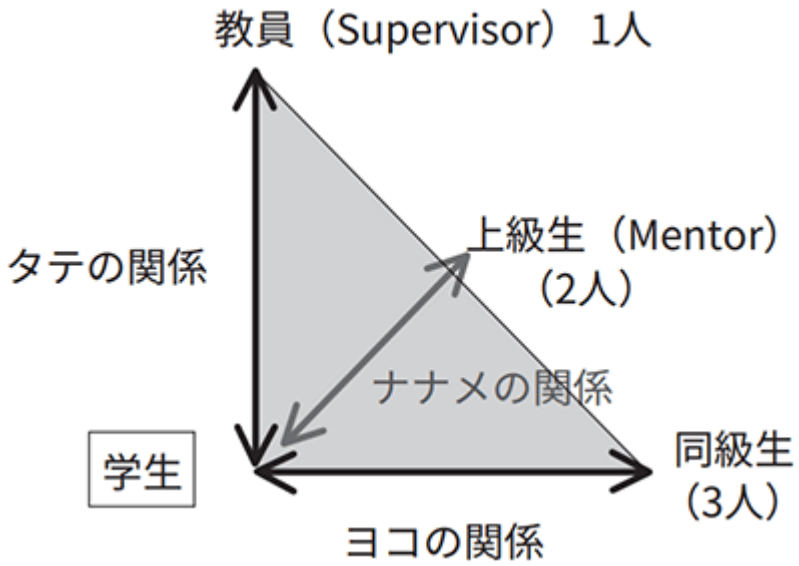
対象：グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科では高い英語スコア取得や2年次の海外留学などが必修となります。自己の努力も必要ですが、先輩から助言を得ることが達成の秘訣です。悩みがある場合や壁にぶつかった時に、相談できる先輩がメンター（Mentor）です。
グローバルスタディーズ学科では4名の学生〔メンティー（Mentee）=助言を受ける人〕に2名のペアで先輩のMentorが付き、みなさんのよき相談員となります。

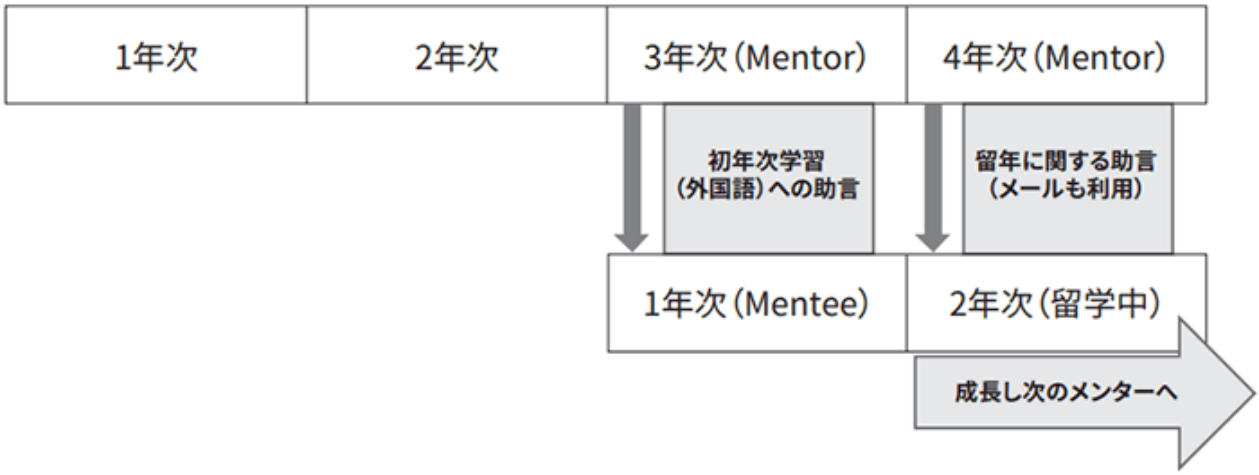
（1） 対象となる学生
① メンター：3年生と4年生から選抜された各30名
② メンティー：1年生と2年生の全員

（2） メンター制度の意義
みなさんは「スーパーバイザー制度」等により学修が順調に進むように多面的なサポートが受けられます。その中でもこのメンター制度は、上級生がメンターとなり下級生（メンティー）を支援する事で下級生は上級生から助言が得られるだけで無く、上級生は下級生に助言を行う事で社会人として必要になるマネジャーとしての素養を学びます。その他にも4名の学生同士が同じメンターペアにつく事で、チーム内で互いに学びを支えあう環境としています。

〈多角的な学修相談支援体制〉



（3） メンター制度の詳細
①メンター設置方法
メンターは3年次～4年次に1年次～2年次下級生への指導•助言を行います。



②相談内容

「外国語学習方法」「留学先選定」「学生生活」など全般

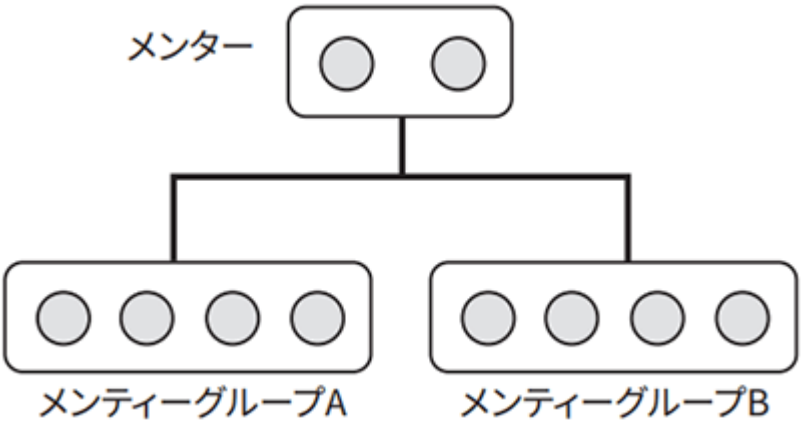
メンターは自分達の知識外の質問を受けた場合は、同学年の友人•知人に聞く、または知人を紹介する等、メンティーの質問に対して最大限の努力で応えます。

③メンターの選出方法

3年次の「演習Ⅰ」において担当教員が適性のある学生を選出します。

④グルーピング

メンターは2名のペアでメンティーのサポートを行います。メンティーは4名で1グループとし、メンターペアは2グループ（計8名、メンター1名あたり4名のメンティー）を支援します。それぞれの支援ペア／グループは基本的には2年間変わりません。



⑷ 最初の顔合わせ

前期の4月上旬～中旬までの間に、「リサーチ方法論A」の授業がある週の昼休みにすべての1年生とメンターが集まって最初の顔合わせを行います。その場でお互いに連絡先を交換して、具体的な助言方法については相互に話しあって決定します。この日の昼食は各自持参とし、顔合わせとメンター制度の説明のあとは、マッチングされたメンターとメンティーとで一緒に昼食となります。

国際ツーリズムプログラム（国際文化学科）

対象： 国際文化学科

国際文化学科生のうち希望者は、1年次から「国際ツーリズムプログラム」（International Tourism Program：ITP）に関する科目を履修できます。所定のITP関連科目および単位数を修得することで、学科が独自に発行するプログラム修了証（certificate）を申請することができます。

グローバルスタディーズ学科の教育課程

【1】科目区分と卒業に必要な単位数

グローバルスタディーズ学科では、系統的な学修ができるために科目分野を定めています。入学した皆さんはこれらの科目をバランス良く履修し、それぞれの科目分野で定められた単位を修得することで卒業となります。

1．学科外国語科目（卒業要件：16単位）

グローバルスタディーズという学問領域を、英語を用いて学ぶため、また2年次以降の留学時に現地での正規専門科目を履修出来るために必要な英語運用能力の習得を目指す科目区分です。実践的な4技能（Reading、Writing、Listening、Speaking）の他にも、IELTS™、TOEIC®などで留学に必要なスコア取得を目指す各種対策クラス、海外での進路を目指す際に必要な英語での履歴書作成や、インタビュー対策を学べる「Career English」など多彩なラインアップです。

【必修科目】

- 英語（Reading） I
- 英語（Writing） I
- 英語（Oral Communication） I
- 英語（Reading） II
- 英語（Writing） II
- 英語（Oral Communication） II

【選択科目】

- Business English through TOEIC（Basic A）
- Business English through TOEIC（Basic B）
- Academic English through IELTS（Basic A）
- Academic English through IELTS（Basic B）
- Business English through TOEIC（Advanced A）
- Business English through TOEIC（Advanced B）
- Academic English through IELTS（Advanced A）
- Academic English through IELTS（Advanced B）
- Career English

2．教養教育科目（卒業要件：4単位）

仏教の思想A•B（必修）

教養教育科目は、学生の興味•関心や研究テーマをより広い視野から理解し、充実したものにすることを目指した科目区分です。人文•社会•自然およびスポーツの分野に属する科目で構成され、深草学舎の他学部学生と共に受講します。様々な科目がありますので、自分の興味•関心•進路の希望に応じて選択•履修してください。なお、教養教育科目のうち、本学の建学の精神を涵養する科目として、「仏教の思想A」（2単位）と「仏教の思想B」（単位）は、必修科目です。詳細については、「教養教育科目の教育目的および履修方法」を参照してください。

3．学科基礎科目（卒業要件：16単位）

グローバルスタディーズという学問領域を学ぶための基礎知識とリサーチ方法を学ぶための科目区分であり、全て必修科目です。

リサーチ方法論A•B（必修）

初年次学生に対して、大学で学ぶための基礎的なスキルと知識を身につけるための科目です。具体的には、「テーマを見つける」「文献を探す」「批判的に読む」「データを集める」「根拠を示して書く」「簡潔に伝える」などの能力を磨くことを目的としています。最終的には、3000字程度のレポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを実施します。少人数のクラスに分かれ、担当となる各専任教員やクラスメイトとのコミュニケーションを通じて、これらのスキルの習得と向上を目指します。

ITリテラシーA•B（必修）

基礎的なパソコン操作のスキルを学び、Wordを用いたレポートの作成、Excelによる表計算、PowerPointを利用したプレゼンテーション資料の作成などのスキルを習得します。その上で、アカデミックな場において適切な方法で必要な情報を収集し、収集した情報から抽出された知識を他者と共有し、広く自身の見解を公表することができるようになる事を目指します。

グローバルスタディーズA•B•C•D（必修）

「グローバルスタディーズ」という学問領域を学ぶために必要となる基礎的な知識を習得します。この科目で学んだことは、今後4年間での学びの骨格をなす事になります。Aでは社会科学的•人文科学的の両方から学ぶ「コミュニケーション」領域、Bでは政治•経済•文化などを学ぶ「グローバリゼーション」領域。Cでは平和に共存するために相互の価値観の理解を軸とした「エシックス」領域を学びます。
Dでは「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3領域を横断して現在の世界が直面する諸問題を考えます。

4．学科専攻科目（卒業要件：44単位）

グローバルスタディーズ学科の要となる科目群です。「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の学問領域及びそれらの複合領域（「学問領域構成図」参照）から構成された科目から自由に選択して受講します。一部科目は、各領域の基礎科目である「グローバルスタディーズA•B•C」を先修科目としています。

【専攻基礎科目】（卒業要件：20単位）

専攻科目のうち、2年次に配当される科目です。卒業要件として20単位以上の取得が必要になります。

【専攻応用科目】（卒業要件：14単位）

専攻科目のうち、3年次以上に配当される科目です。卒業要件として14単位以上の取得が必要になります。「卒業論文」もこの科目です。
また、次の科目から6単位以上の修得が必要になります。（選択必修）
（選択必修科目）「言語教育政策論」、「Global Englishes and Communication」、「Postcolonialism」、「Sustainability Studies」、「ナショナリズム研究」、「安全保障論」

【演習科目】（卒業要件：10単位）

「プロジェクト演習」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習III」、「演習IV」の計5科目です。
全てが必修科目であり、卒業するためには全ての科目を修得しなくてはなりません。
「演習Ⅰ～IV」を履修するためには、先修科目である「リサーチ方法論AまたはB」を修得しておく必要があります。

5．留学科目（卒業要件：22単位）

必修留学をするための条件

必修留学の派遣が許可されるためには、前年度までに修得しておかなければならない単位数などの条件があります。詳細は「国際学部グローバルスタディーズ学科長期留学に係る取扱内規」を確認してください。

【留学先履修科目により認定を受けられる科目】

〈カテゴリーA〉

留学単位認定専用科目であり、実際に受講はしない科目です。そのためこれらの科目は履修登録できません。留学から帰国した後、単位

認定を受ける際に選択します。

•自然人類学入門•社会心理学•宗教の世界史•社会学入門•文化人類学入門•映像文化入門•大衆文化入門•世界文学入門•比較文化入門•English Workshop Ａ•English Workshop Ｂ•English Workshop Ｃ•English Workshop Ｄ• 上級英語Ａ• 上級英語Ｂ•Advanced English Ａ•Advanced English Ｂ• Advanced English Ｃ•Advanced English Ｄ•東西文化交渉論•宗教文化の交流•宗教と共生社会•環境人類学•環境保全論•NGO／NPO論•国際政治入門•都市計画•英語外書講読Ａ•英語外書講読Ｂ•比較言語学•Exploring Cultures•Exporting Japanese Culture•観光学入門•観光社会論•国際観光論•ホスピタリティ論•観光心理学•観光文化論Ｂ

〈カテゴリーB〉

留学単位認定可能かつ受講可能科目です。ただし、留学で単位認定を受けた場合は、実際に受講することはできません。

宗教学概論•国際関係と宗教•比較宗教思想•日本の経済と社会•マイグレーション研究Ｃ（国際労働移動）•国際経済と日本•Race and Ethnicity入門•オセアニアと日本•マイグレーション研究Ａ（多文化共生社会）•観光文化論Ａ

※カテゴリーA•B以外にもグローバルスタディーズ学科開設科目にて認定を受けることもできます。ただし既に修得済であったり履修登録している科目は対象外となります。

留学先でどのような科目を受講するかについては、春（5月）と秋（9〜10月）の留学説明会の資料をよく読んだ上、スーパーバイザーと相談して決めましょう。

【留学科目22単位のカウントについて】

留学単位22単位は次の順位でカウントされます。また、**修得科目の追加など変更が生じた場合、修得済の科目も含め毎学期カウントし直され、成績表に更新された情報が表示されます。**

■＜留学科目22単位のカウントにかかる優先順位＞

1. 国際文化学科提供科目
2. 留学の成果で認められた基礎科目→（留学認定）専攻基礎科目「○○○」
3. 留学後に修得した基礎科目→＜留学実践＞専攻基礎科目「○○○」

※毎学期この優先順位をもとにカウントし直されます。

＜例＞4セメスターで留学した学生

6セメスター開始時点

・4セメの留学の成果をもって認定された単位20単位

・5セメ＜留学実践＞専攻基礎科目で修得した「Advanced Writing Strategies」2単位

計22単位

修得済みであった場合、

6セメスター

・国際文化学科提供科目の「国際経済と日本」2単位を履修し修得

・＜留学実践＞専攻基礎科目より優先度の高い国際文化学科提供科目である「国際経済と日本」の2単位が留学単位としてカウントされ、＜留学実践＞専攻基礎科目「Advanced Writing Strategies」の2単位が本来の専攻基礎科目として再カウントされます。

6セメスター終了時点

・4セメの留学の成果をもって認定された単位20単位

・6セメ国際文化学科提供科目「国際経済と日本」で修得した2単位

計22単位

が留学科目の認定となります。なお、専攻基礎科目の「Advanced Writing Strategies」2単位は専攻基礎科目としてカウントされます。
※一度、22 単位満了した学生もその後履修する科目のカウントにより、成績表に変動が生じますので、その点を十分注意・確認したうえで履修登録をおこなうようお願いします。

6．国際学部関連科目（卒業要件：12単位）

・「グローバル・キャリア入門」（登録必修2単位）
・「教養教育科目」以外の「学科外国語科目」「学科基礎科目」「学科専攻科目」「留学科目」の科目区分において、卒業要件単位を満たした場合、「国際学部関連科目」として認定されます。なお、「国際学部関連科目」の卒業要件12単位を満たした場合は、「フリーゾーン」として認定されます。

7．フリーゾーン（卒業要件：10単位）

卒業要件124単位のうち、上記科目区分1～6それぞれで定められた卒業に必要な単位数を差し引くと10単位が不足します。
これを「どの科目区分にも該当しない領域」という意味で、「フリーゾーン」と呼びます。
フリーゾーンは皆さん個々の関心とニーズに応じて多様な科目選択をするために設定しているものです。「学科外国語科目」「教養教育科目」「学科基礎科目」「学科専攻科目」「留学科目」「国際学部関連科目」から余分に修得した単位に関しては、このフリーゾーンで認定されます。

8．単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、本願寺派教師資格課程など

上述の科目区分表には含まれないものとして、単位互換科目や資格関連の科目があります。
「単位互換科目」は、「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度を利用し、大学コンソーシアム京都加盟の他大学で開講されている科目を履修するものです（これらの科目は2年次以上で履修できます）。単位互換科目の詳細については、ホームページを参照してください。
また、グローバルスタディーズ学科では、「中学校教諭一種免許（英語）」、「高等学校教諭一種免許（英語）」、「博物館学芸員」、「本願寺派教師資格」を取得できます。こうした資格を取得するためには、それぞれの課程が定めた科目を修得する必要があります。詳細については、ホームページ（https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html）を参照してください。

【2】3つの学問領域

グローバルスタディーズ学科では、2年次以降に専門科目を学ぶにあたり、「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の3つの学問領域を設けて科目を構成しています。また学年進行に応じて、異なる2領域が重なる科目、例えば「グローバリゼーション＋コミュニケーション」など、3領域が重なる総合的科目を配置しています。これにより、低年次よりステップアップしながら複合的な視点での思考や分析に習熟できる事を目指します。

1．3つの基本領域

（1）グローバリゼーション領域

「グローバル・ヒストリー入門」、「国際関係入門」などの科目を配置し、現代のグローバル化を多様な視点から考察するための基礎知識を養います。

（2）コミュニケーション領域

「会話分析入門A」、「会話分析入門B」、「Discussion & Debate」、「English for Global Studies」などの科目を配置し、言語とコミュニケーションに関わる基礎的な知識と実践的スキルを修得します。

（3）エシックス領域

「政治思想概論」、「Postcolonialism」などの科目を配置し、多様な価値観と倫理観を歴史的、国際的な観点から考察するための基礎知識を養います。

2．複合領域

（1）「グローバリゼーション＋コミュニケーション」領域

「通訳•翻訳研究A」、「通訳•翻訳研究B」、「Globalization of Education」などの科目を配置し、グローバル化する世界で適切なコミュニケーションをどのように構築していくかを考察•実践します。

（2）「グローバリゼーション＋エシックス」領域

「グローバル市民社会論」、「国際開発協力論」などの科目を配置し、グローバル化がもたらす諸課題を倫理的な視点を重視して考察•実践します。

（3）「コミュニケーション＋エシックス」領域

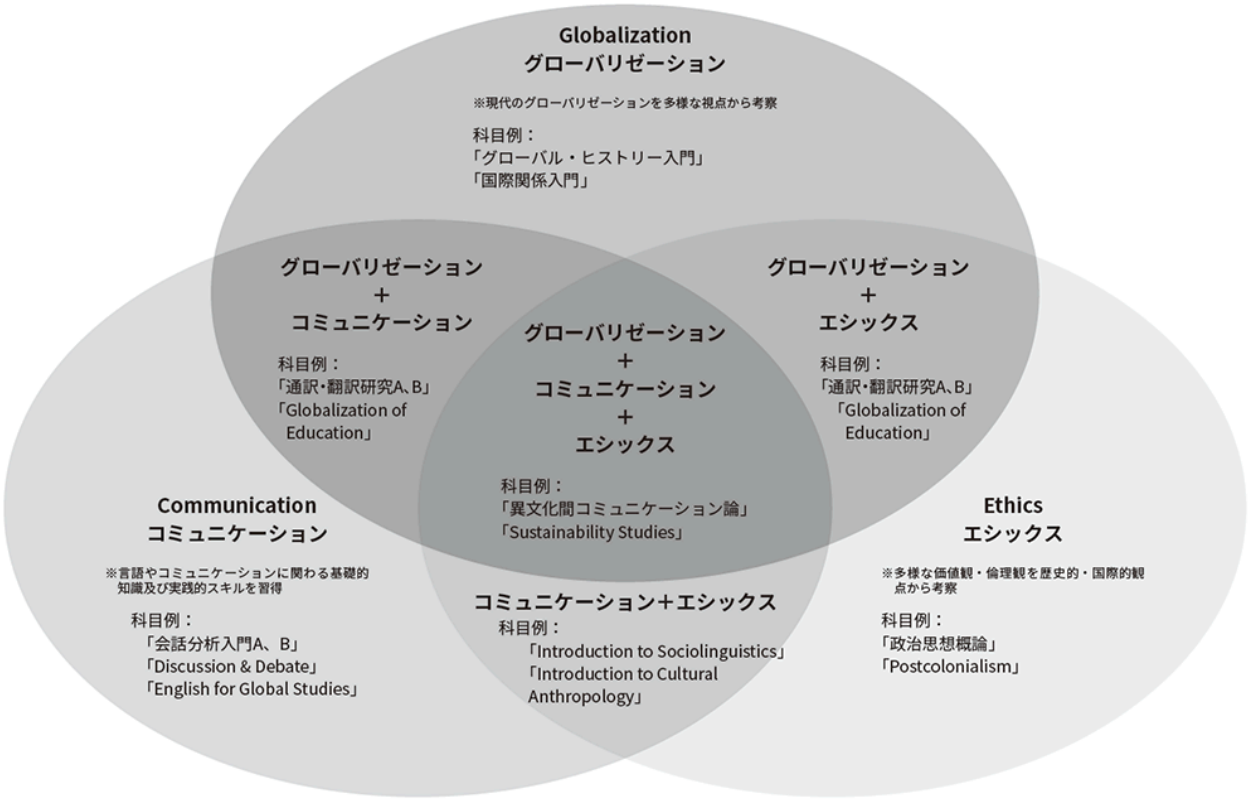
「Introduction to Sociolinguistics」、「Introduction to Cultural Anthropology」などの科目を配置し、多様な価値観や倫理観を生み出す文化的背景やそれに伴う齟齬、また、円滑なコミュニケーションの方法を考察•実践します。

（4）「グローバリゼーション＋コミュニケーション＋エシックス」領域

全ての領域が重なるこの領域では、「異文化間コミュニケーション論」などの科目を配置し、3つの領域を束ねる観点から世界が直面する諸問題や、グローバル化した社会の諸側面を総合的かつ実践的な見地から考察します。

それぞれ科目がどの学問領域に属するかについては、「開設科目一覧」の「領域」欄で確認できます。なお、この学問領域はグローバルスタディーズ学科の専攻科目と一部の基礎科目にのみ設定されており、その他の分野では設定はありません。

3．学問領域構成図



【3】キャリア教育とキャリアデザイニング

グローバルスタディーズ学科では、柔軟性と批判的精神を併せ持ちながら、「グローバル言語としての英語（English as a Global Language）」という概念のもと、卓越した英語力をもって国際舞台で活躍できる人材へと皆さんに成長してもらいます。そのために4年間の学修を通して、多様な価値観をグローバルな視点から捉えなおし、国際的な事象を複眼的に分析するための知識•方法を修得します。キャリア教育科目は、皆さんが将来どのような進路に進むかを決めるうえで大切な科目です。受講が必修ではありませんが、ぜひ受講しましょう。

1．想定する進路

グローバルスタディーズ学科では、皆さんが卒業してから進む進路として、以下のような職業を想定してカリキュラムを編成しています。

> 民間企業の国際部門、外国•外資系企業、国際機関職員、国際NGO/NPO団体、翻訳•通訳者、中学•高校教員、海外大学•大学院等

2．キャリア科目

皆さんが将来どのような進路に進むかを自主的に学び、考え、時にはフィールドに出て実践する機会として、以下の科目を配置しています。

科目名	配当年次	科目区分	備考
グローバル•キャリア入門	1前	国際学部関連科目	
グローバル化とキャリア形成	2後	学科専攻	
Career English	3前•後	学科外国語	
海外キャリア実践Ⅰ	3前•後	学科専攻	
海外キャリア実践Ⅱ	3後•4前	学科専攻	海外インターン含む

（1）「グローバル・キャリア入門」クラスの受講について

この科目は1年生全員が受講する科目で、卒業生に対するインタビューを中心に授業を進め、自分自身が卒業した後のキャリア•プランを考える機会を提供します。1年生で不合格となった場合、2年生以降は通常の選択科目として再履修可能です。

（2）「グローバル化とキャリア形成」クラスの受講について

この科目では、実際にさまざまな場面で国際的に活躍している社会人の方々を講師として招き、実情に基づいた講義を行います。講義は日本語を中心に行われますが、資料は英語を使用する場合もあります。

（3）「Career English」クラスの受講について

国内に留まらない進路に進む学生やグローバル採用を目指す学生に対して、英語でのcurriculum vitae（履歴書）作成や、就職活動への実践的アドバイス及びビジネス英語を中心に学びます。加えて海外大学院等に進学するために必要な英語能力の習得も目指します。英語での就職面接を想定した模擬面接も行われる実践的なクラスです。開講言語は英語を基本とします。

（4）「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」

① **「海外キャリア実践Ⅰ」（事前学習）**
本科目では、企業や国際機関、行政組織やNGO/NPOなど幅広い職業分野における海外での就業体験（インターンシップ）に従事するための事前学習を行います。インターンシップから戻ってきた学生とこれから行く学生とが共に事前／事後学習に取り組む機会を設け、相互の情報共有や学び合いを重視します。到達目標として、多様な他者と協力しながらグローバルに活躍できる人材として必要な能力とビジョン、マナーと自信を実践的に獲得する事を目指します。受講生はプレゼンテーションおよびディスカッションを英語で行うことが求められます。

② **「海外キャリア実践Ⅱ」（インターンシップ実践と事後学習）**
本科目では、企業や国際機関、行政組織やNGO/NPOなど幅広い職業分野における海外でのインターンシップに実際にチャレンジする

事と、その経験を振り返り学びを深めるための事後学習を行います。インターンシップ後の学生と体験前の学生とが共に事前／事後学習に取り組む機会を設け、相互の情報共有や学び合いを重視します。到達目標として、多様な他者と協力しグローバルに活躍できる人材として必要な能力とビジョン、マナーと自信を実践的に獲得する事を目指します。インターンシップは業務の50%以上で英語を使用します。また、授業内でもプレゼンテーションとディスカッションは英語で行います。

③ **インターンシップ先と参加申込み手続きについて**

ア、【協定型インターンシップ…大学と提携している企業•機関など】

「海外キャリア実践Ⅰ」の履修セメスターの前に、学内で説明会を開催し、インターンシップ先の説明および行き先を決定します。

イ、【自己開拓型インターンシップ…学生自身が探して来た企業•機関など】

インターンシップ先の概要を記した仕様書とインターンシップ内容を記した計画書および面接をもとに、本授業のインターンシップとして適当かどうかを教員が判断し、派遣を決定します。詳細は協定型と同じ学内説明会で説明します。

④ **費用と渡航準備及び海外傷害保険への加入について**

費用（渡航費、保険料、宿泊費や食費、現地交通費など）は原則、学生の自己負担です。しかし、インターンシップ先で宿泊施設や交通費などが支給される場合は、この限りではありません。インターンシップ先への渡航および現地宿泊施設の確保などは、適宜教員やインターンシップ先のアドバイスを受けながら自分で手配します。

海外傷害保険への加入は海外でインターンシップに参加する全員の義務です。
龍谷大学は、保険会社と包括契約を結んでおり、この指定の保険に加入します。加入方法については授業で案内があります。
その他、海外でのインターンシップに関しては担当教員の指導をしっかりと受けて、インターン先の選定や計画を行いましょう。

【4】履修方法

系統的な学修ができるために科目分野を定めていることは前述の「科目区分と卒業に必要な単位数」にて説明しました。この章では各分野ごとに履修の方法や、注意点などを説明します。卒業に関わる重要なポイントです。しっかり理解した上で履修して下さい。

1．学科外国語科目の履修方法

グローバルスタディーズ学科では、みなさんが世界を舞台に活躍するために、「グローバル言語としての英語（English as a Global Language）」を学習する機会を提供します。その学習では、英語を上手く使えるようになることがゴールではありません。さまざまな文化的、社会的、言語背景をもつ人々とのコミュニケーションにおいて、英語を使って情報を収集し、批判的思考•分析に基づく議論を英語で行い、行動することが重要なのです。その手段としての英語を習得することを目標とします。そのため、「英語を学ぶ」ことは1年次に集中して行い、2年次以降は「英語で学ぶ」ステージに移ります。

具体的には1年次の必修科目として、「Reading」「Writing」「Oral Communication」を設置しています。留学先で英語を使って専門分野の文献を読み、発表を行い、レポートを書くことは想像以上に大変な作業です。それを乗り切って授業に合格するためには、留学前の段階で十分にそうしたトレーニングを受けておく必要があります。また、留学には、英語の標準テストのスコアが要求されます。したがって、TOEIC®やIELTSTMのスコアアップを目的とした「Business English through TOEIC」や「Academic English through IELTS」といった授業も1年次から選択受講できます。さらに、外国企業や国際機関などへの進路を目指す人が英語での履歴書の書き方や面接の受け方について実践的に学べる「Career English」など、他の大学にはない多彩な授業を選択できるようになっています。

このように、グローバルスタディーズ学科では、「英語をとことん学びたい•何としてでもモノにしたい」という熱い思いを持つみなさんの期待に応えるカリキュラムを用意しています。ただし、どれほど素晴らしいカリキュラムが用意されていても、みなさんが受け身の姿勢で授業に臨むようでは、学習効果は期待できません。積極的な姿勢で授業に臨むのはもちろんのこと、授業外にいかに「自主学習」を行うか、そうした努力を伴って初めて高い学習効果が期待できるのです。深草キャンパスにあるグローバルコモンズ（和顔館 1F）では、最新の外国語自主学習設備を整えた施設が開設されます。是非、積極的に活用しましょう。

なお、国際学部グローバルスタディーズ学科では卒業するためにはTOEIC®L&R730以上、TOEFL®（iBT80/PBT550）以上、IELTSTM6.0以上を取得する必要があります、入学する皆さんはこの事をしっかり理解しておいて下さい。
国際舞台で英語を使ってどのようなことを受信発信できる人材になっているか、皆さんの4年後を楽しみにしています。

グローバルスタディーズ学科で履修する外国語は英語のみとなります。1年次は少なくとも週6クラス、英語クラスを受講します。

（1）必修英語クラスの種類

1年次 前期	1週間の受講回数	1年次 後期	1週間の受講回数
英語（Reading） I	2	英語（Reading） II	2
英語（Writing） I	2	英語（Writing） II	2
英語（Oral Communication） I	2	英語（Oral Communication） II	2

（2）必修英語クラスのクラス分けについて

入学前に全員が受験した「TOEIC®L&R（IP）」のスコアにより3レベルのクラス分けを行っています。

具体的には以下の通りです。

1組 初級

↓

8組 上級

皆さんは指定されたクラスで受講して下さい。クラス分けについては履修登録画面で確認してください。皆さんの履修登録画面上に指定されたクラスがあらかじめ表示されています。

また、1年次の第1学期（前期）から第2学期（後期）にかけて受検した英語運用能力測定テストの最新スコアにもとづき、第2学期（後期）のクラス分けを行います。

（3）各種英語テスト対策クラス（選択クラス）

留学先で求められる語学スコアの取得を目指して、各種クラスが選択して受講ができます。例えば、オーストラリアに留学を希望していて、参加条件が「IELTS5.5以上」であれば、IELTS対策クラスを受講して下さい。

1） TOEIC対策クラス

1年次対象	2年次対象
Business English through TOEIC（Basic A）	Business English through TOEIC（Advanced A）
Business English through TOEIC（Basic B）	Business English through TOEIC（Advanced B）

① Basic Bのみ第1学期（前期）と後期に同じ内容のクラスが開講されます。どちらで履修しても構いません。
② 各クラスの受講条件については、履修登録要領を確認して下さい。

2） IELTS対策クラス

1年次対象	2年次対象
Academic English through IELTS（Basic A）	Academic English through IELTS（Advanced A）
Academic English through IELTS（Basic B）	Academic English through IELTS（Advanced B）

① Basic Bのみ第1学期（前期）と後期に同じ内容のクラスが開講されます。どちらで履修しても構いません。
② 各クラスの受講条件については、履修登録要領を確認して下さい。

（4）Career English（選択クラス）

海外企業や外資系企業への就職、または海外大学への進学を目指す者に対し、英語でのC.V.（curriculum vitae ／履歴書）作成や、インタビュー対策などを専門に学べる科目として「Career English」クラスを設置しています。

（5）必修外国語クラスの先修制と再履修について

「英語（Reading） Ⅰ」「英語（writing） Ⅱ」などの必修外国語クラスは卒業するために必ず合格し、単位を取得しなくてはなりません。もし不合格になった場合は、再履修する事になります。

1） 再履修について

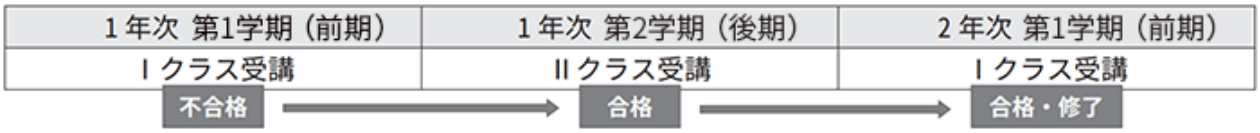
60点未満の場合は不合格となり、再履修の必要があります。その場合は次年度に開講されるクラスにて同じ科目を受講しなくてはなりません。不合格の場合は、指定されたクラスを履修登録し、受講して下さい。

2） 先修制について

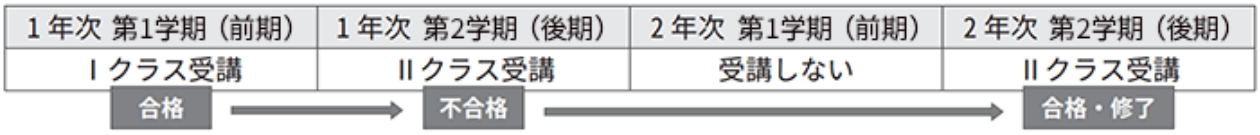
必修外国語の科目には「Ⅰ・Ⅱ」といった数字がついています。先修制とは、Ⅱを受講するにはⅠの合格が前提条件となる事ですが、グローバルスタディーズ学科の英語外国語科目は先修制ではありません。前期にⅠが不合格でも後期にⅡを受講可能です。

3） 再履修受講のパターンについて

①1年次前期でⅠが不合格になった場合



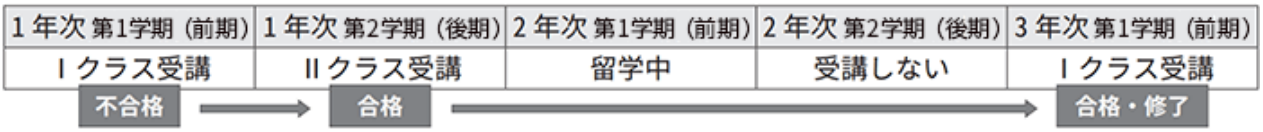
②1年次後期でⅡが不合格になった場合



③1年次後期でⅡが不合格になり、2年次前期に留学する場合



④1年次前期でⅠが不合格になり、2年次前期に留学する場合



⑤1年次前期でⅠ後期でⅡが不合格になり、2年次後期に留学する場合



2．英語運用能力測定テストの基準スコア提出

グローバルスタディーズ学科では、グローバル言語としての英語能力の習得を目指します。卒業後すぐに国際舞台で活躍できるレベルとしてその目標スコアは以下のとおりです。

■目標値

	TOEIC®L&R（IP含む）	TOEFL ITP®	TOEFL iBT®	IELTS™
スコア	830以上	580以上	93以上	6.5以上（Overall）

目標スコアを目指すためには、英語関連クラスを受講するだけでなく自主的な学習が必須です。和顔館グローバルコモンズ内にある自律型言語学習支援施設などをしっかり活用しましょう。

（1）卒業要件としての基準スコア

卒業するためには入学後から4年次第2学期（後期）の定められた期日までに以下の各種英語運用能力テストの基準スコアのいずれかを取得しておく必要があります。

なお、大学に提出されたスコアについて、改ざん等の不正行為が発覚した場合、学生懲戒規程等に基づき退学や遡及して卒業取消等の処分を行うことがあります。

	TOEIC®L&R（IP含む）	TOEFL ITP®	TOEFL iBT®	IELTS™
スコア	730以上	550以上	80以上	6.0以上（Overall）

※提出するスコアは受験日が入学後のものであれば全て有効とします。

※TOEFL iBT®についてはTest DateスコアもしくはMy Best™スコアも卒業要件スコアとして認定します。

※自宅受験版のスコア（TOEIC IPテスト（オンライン）、TOEFL iBT HOME Edition、IELTS Online等）は、全て対象外です。

（2）スコア提出方法及び期日

1）大学補助（受験料大学負担）にて実施する英語資格試験の英語スコアについて（対象：TOEIC®L&R、TOEFL ITP®、IELTS™）

各実施団体から大学に対して提供される英語スコア（電子データ）を原本として適切に管理しますので、**スコアの提出は不要**です。

大学補助にて実施する英語資格試験のスケジュールや手続き等については、別途ポータルサイトのお知らせ等にて周知します。

※大学補助にて実施する英語資格試験を受験した場合は、英語スコアが受験者本人に届きます。manaba等への提出は不要ですが、留学の手続きには必要となります。再発行はできないため、必ず各自で保管し必要に応じて提出してください。

2）大学補助以外の英語資格試験の英語スコアについて

大学補助以外の英語資格試験を受験した方は、以下のとおり英語スコアを提出する必要があります。

＜提出方法＞

英語資格試験	提出区分	提出方法
TOEIC®L&R （公開テスト）	manaba	・実施団体が発行する「デジタル公式認定証」を提出。 ・URL とPDF の両方を提出。 ※実施団体のHP に試験日から5年間表示可能。 （それ以上経過した場合は利用不可）
TOEIC®L&R （大学補助以外で実施 するTOEIC®IPテスト）	郵送	・英語スコア原本を「書留」にて国際学部教務課に提出。 ※その際、返信用封筒を同封すること。（返信先住所・氏名を記載の上、「書留」郵便料金分の切手を貼付） ＜郵送先住所・宛名＞ 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学国際学部教務課　英語スコア管理係
TOEFL ITP®		
TOEFL iBT®		
IELTS™	manaba	・実施団体が発行する英語スコアを「Test Report Form Number」が明確な状態で提出。 ※試験日から2年間有効。 （それ以上経過した場合は利用不可）

※【厳守事項】英語スコアは、手元に届き次第すぐに大学に提出すること（有効な期限を超過した英語スコアは大学へ提出できないため、必ず自己責任にて提出すること）。

※提出区分がmanabaとなっている場合、「【GS】学科全体コースのアンケート」から英語スコアを提出する必要があります。詳細は、manaba（【GS】学科全体コース）を確認してください。

※郵送が必要なスコアの場合、提出期日が土・日・祝日の場合、翌営業日必着。

＜提出期日＞

時期	提出期日	目的
A	7月31日	・第1学期（前期）学業成績表の備考欄にスコア情報を反映するため
B	8月20日	・9月卒業判定 （当該年度第1学期（前期）在学8セメスター以上且つ9月卒業を希望する学生）
C	1月31日	・第2学期（後期）学業成績表の備考欄にスコア情報を反映するため ・3月卒業判定 （当該年度第2学期（後期）在学8セメスター以上の学生）

※受験日やスコア取得日等の関係で定められた期日内にスコアを提出ができない場合は、次のタイミングで報告してください。
（例：7月下旬に受験し8月中旬にスコアを取得もしくは確認できる場合 → 第2学期（後期）（1月31日まで）に提出 ）
※卒業判定に係るスコア提出期日等（疑義申請含む）の詳細については、以下のとおりです。

【卒業判定に係るスケジュール】

上述のとおり、大学補助以外の英語資格試験を受験した方のみが提出対象となります。
ただし、スコア提出の要・不要（大学補助による受験・大学補助以外の受験）に関係なく、全ての学生が成績（卒業判定結果）開示時に公開される学業成績表の備考欄のスコア表示を確認し、万が一、スコア表示に誤りがある場合は成績疑義受付期間に申請してください。
申請方法等の詳細については、別途ポータルサイトのお知らせ等にて周知します。

区分	9月卒業提出期日 ※1	3月卒業提出期日
成績開示前 （卒業判定結果開示前）	**8月20日** 郵送が必要となるスコアの場合は必着 ※2	**1月31日** 郵送が必要となるスコアの場合は必着 ※2
成績開示後 （卒業判定結果開示後）	卒業判定対象者の成績疑義受付期間 ※3	卒業判定対象者の成績疑義受付期間 ※4

※1　9月卒業については、当該年度第1学期（前期）に在学8セメスター以上且つ9月卒業を希望する方（アンケート回答必須）が対象となります。
※2　郵送が必要な英語スコアの場合、指定期日が土・日・祝日の場合、翌営業日必着。
※3　8月20日以前に取得・受験したスコアが受付対象（8月21日以降に取得・受験したスコアは対象外）となります。
ただし、8月20日以前に受験した場合でも、期日までにスコアの提出が間に合わない場合は判定対象外となります。
※4　1月31日以前に取得・受験したスコアが受付対象（2月1日以降に取得・受験したスコアは対象外）となります。
ただし、1月31日以前に受験した場合でも、期日までにスコアの提出が間に合わない場合は判定対象外となります。

3）英語スコアの確認方法について

大学が管理している英語スコアは、学業成績表の備考欄に記載しています。万が一、スコア表示に誤りがある場合は成績疑義受付期間に申請してください。

（3）入学から卒業までの各種英語運用能力テストの受験について

グローバルスタディーズ学科では、卒業前だけでなく入学後すぐに計画的に各種英語運用能力テストを受験していく必要があります。入学後、先ずは2年次の留学希望先が求めるスコア・基準を確認した上で、それに向けたスコアアップを目指していく必要があります。

例：留学希望先がUniversity of California, Berkeley
→TOEIC®L&R 685以上が参加条件
→1年次からTOEIC®L&R に照準を合わせて受験対策

1）大学補助（受験料大学負担）による英語運用能力テスト

英語運用能力は、定期的に各自による確認が必要ですが、複数回受験料大学負担による受験機会を設けています。スケジュールや手続き等については、別途ポータルサイトのお知らせ等にて周知します。

その他、受験料は自己負担ですが、龍谷大学生活協同組合（龍大生協）によるTOEIC®L&R（IPテスト）や一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会によるTOEIC® L&R（公開テスト）などを積極的に受験しましょう。

3．再履修

（1）必修科目の再履修について

履修した科目が不合格になった場合は卒業に必要な単位は修得できません。その科目が「必修科目」の場合は再履修し、合格するまで履修しなくてはなりません。

必修科目の再履修方法

科目分野	科目名	再履修方法
教養教育科目	仏教の思想A•B	次年度に開講するクラスから各自選択して登録のうえ受講
学科外国語科目	英語（Reading） Ⅰ•Ⅱ	次年度に開講するクラスのうち、指定されたクラスで受講
	英語（Writing） Ⅰ•Ⅱ	
	英語（Oral Communication） Ⅰ•Ⅱ	
学科基礎科目	リサーチ方法論A•B	次年度に開講するクラスのうち、指定されたクラスで受講
	ITリテラシーA•B	次年度に開講する3クラスのうち、指定されたクラスで受講
	グローバルスタディーズA•B•C•D	次年度に開講するクラスを履修登録
演習科目	プロジェクト演習	次年度に開講するクラスを履修登録
	演習Ⅰ～Ⅳ	次年度に開講する演習を受講

（2）その他再履修に条件等がある科目について

登録必修科目である「グローバル•キャリア入門」が不合格になった場合は、次年度選択科目と同様の扱いとなります。

4．開設科目一覧

○は開講時期を示しています。ただし、それ以上の学年•セメスターであれば受講可能です（一部例外あり）。
（例：1年次配当科目であれば、2年次生～4年次生も受講可能）

■「仏教の思想」科目

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	備考
1	仏教の思想A		2	2科目（4単位）必修
2	仏教の思想B		2	
3	歎異抄の思想Ⅰ		2	
4	歎異抄の思想Ⅱ		2	

■教養教育科目開設科目

教養教育科目開設科目についてはこちらをご確認ください。

■学科外国語科目（必修）

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考

1	英語（Reading） I	English（Reading） I	2	U-02-FGN-1-01	日+英	ー	ー	
1	英語（Writing） I	English（Writing） I	2	U-02-FGN-1-02	日+英	ー	ー	
1	英語（Oral Communication） I	English（Oral Communication） I	2	U-02-FGN-1-03	英語	ー	ー	
2	英語（Reading） II	English（Reading） II	2	U-02-FGN-1-04	日+英	ー	ー	
2	英語（Writing） II	English（Writing） II	2	U-02-FGN-1-05	日+英	ー	ー	
2	英語（Oral Communication） II	English（Oral Communication） II	2	U-02-FGN-1-06	英語	ー	ー	

■学科外国語科目（選択）

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
1	Business English through TOEIC（Basic A）	Business English through TOEIC（Basic A）	2	U-02-FGN-1-11	日+英	ー	ー	スコア条件有
1・2	Business English through TOEIC（Basic B）	Business English through TOEIC（Basic B）	2	U-02-FGN-1-12	日+英	ー	ー	スコア条件有
2	Academic English through IELTS（Basic A）	Academic English through IELTS（Basic A）	2	U-02-FGN-1-13	日+英	ー	ー	スコア条件有
1・2	Academic English through IELTS（Basic B）	Academic English through IELTS（Basic B）	2	U-02-FGN-1-14	日+英	ー	ー	スコア条件有
4	Business English through TOEIC（Advanced A）	Business English through TOEIC（Advanced A）	2	U-02-FGN-2-11	日+英	ー	ー	スコア条件有
3	Business English through TOEIC（Advanced B）	Business English through TOEIC（Advanced B）	2	U-02-FGN-2-12	日+英	ー	ー	スコア条件有
3	Academic English through IELTS（Advanced A）	Academic English through IELTS（Advanced A）	2	U-02-FGN-2-13	日+英	ー	ー	スコア条件有
4	Academic English through IELTS（Advanced B）	Academic English through IELTS（Advanced B）	2	U-02-FGN-2-14	日+英	ー	ー	スコア条件有
5・6	Career English	Career English	2	U-02-FGN-3-11	英語	ー	ー	

■学科基礎科目（必修）

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
1	リサーチ方法論A	Research Methods A	2	U-02-LTE-1-01	日本語	―	ー	★
2	リサーチ方法論B	Research Methods B	2	U-02-LTE-1-02	日本語	―	ー	★
1	ITリテラシーA	IT Literacy A	2	U-02-LTE-1-01	日本語	―	ー	
2	ITリテラシーB	IT Literacy B	2	U-02-LTE-1-02	日本語	―	ー	

1	グローバルスタディーズA	Global Studies A	2	U-02-SOC-1-01	英語	C	ー	
1	グローバルスタディーズB	Global Studies B	2	U-02-INR-1-01	日本語	G	ー	
2	グローバルスタディーズC	Global Studies C	2	U-02-PHI-1-01	日+英	E	ー	
2	グローバルスタディーズD	Global Studies D	2	U-02-GLS-1-01	日+英	G＋C＋E	ー	

■学科専攻科目【専攻基礎科目】（卒業要件：20単位）

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
3	会話分析入門A	Introduction to Conversation Analysis A	2	U-02-LIN-2-01	日+英	C	ー	
4	会話分析入門B	Introduction to Conversation Analysis B	2	U-02-LIN-2-02	日+英	C	ー	
4	言語習得論	Language Acquisition	2	U-02-FLE-2-01	日+英	C	ー	
3	異文化間コミュニケーション論	Intercultural Communication	2	U-02-LIN-2-03	日本語	G+C+E	○	
3	Contemporary Literature	Contemporary Literature	2	U-02-LIE-2-01	英語	C	ー	
3・4	Discussion ＆ Debate	Discussion & Debate	2	U-02-FGN-2-21	英語	C	ー	
3・4	Advanced Writing Strategies	Advanced Writing Strategies	2	U-02-FGN-2-22	英+日	C	○	
3・4	Critical Reading	Critical Reading	2	U-02-FGN-2-23	英語	C	ー	
3	Introduction to Sociolinguistics	Introduction to Sociolinguistics	2	U-02-SOE-2-01	英+日	C+E	ー	
3	国際関係入門	Introduction to International Relations	2	U-02-INR-2-01	英語	G	ー	
3	政治思想概論	Political Thought	2	U-02-POL-3-01	日+英	E	ー	
3	国際開発協力論	International Development and Cooperation	2	U-02-INR-3-01	日本語	G+E	ー	☆
4	グローバル・ヒストリー入門	Introduction to Global History	2	U-02-HIS-2-01	日+英	G	ー	
4	Introduction to Cultural Anthropology	Introduction to Cultural Anthropology	2	U-02-CUA-2-01	英語	C+E	ー	
4	文化遺産学	Cultural Heritage Studies	2	U-02-HIS-2-02	日+英	C+E	ー	
3	南アジアの言語	South Asian Languages	2	U-02-ARS-2-01	日+英	C	ー	
3	グローバリゼーションとアフリカ	Globalization and Africa	2	U-02-ARS-2-02	日+英	G+E	ー	
4	グローバリゼーションと東アジア	Globalization and East Asia	2	U-02-ARS-2-03	英語	G+E	ー	

3	グローバリゼーションと南アジア	Globalization and South Asia	2	U-02-ARS-2-04	日+英	G+E	ー	
4	グローバリゼーションとヨーロッパ	Globalization and Europe	2	U-02-ARS-2-05	日+英	G+E	ー	
3	グローバリゼーションとラテンアメリカ	Globalization and Latin America	2	U-02-ARS-2-06	日+英	G+E	ー	
4	グローバル・ガバナンス論	Global Governance	2	U-02-ILA-2-01	英語	G+E	ー	
3	宗教文化学入門	Introduction to Religious Cultural Studies	2	U-02-RES-2-01	日+英	E	ー	
4	グローバル化とキャリア形成	Globalization and Career Development	2	U-02-CAE-2-01	日+英	キャリア	ー	★

■学科専攻科目【専攻応用科目】（選択必修）（卒業要件：6単位）

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
6	言語教育政策論	Language Education Policy Studies	2	U-02-FLE-3-03	日+英	G+C+E	ー	「グロスタA」先修
6	Global Englishes and Communication	Global Englishes and Communication	2	U-02-LIN-3-04	英語	G+C+E	ー	「グロスタA」先修
6	Postcolonialism	Postcolonialism	2	U-02-POL-3-02	英語	E	ー	「グロスタC」先修
6	Sustainability Studies	Sustainability Studies	2	U-02-SES-3-01	英語	G+C+E	ー	「グロスタC」先修
5	ナショナリズム研究	Nationalism Studies	2	U-02-HIS-3-01	日+英	G+E	ー	「グロスタB」先修
5	安全保障論	Security Studies	2	U-02-INR-3-02	日+英	G+E	ー	「グロスタB」先修

■学科専攻科目【専攻応用科目】（選択）（卒業要件：8単位）

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
5	心理言語学	Psycholinguistics	2	U-02-LIN-3-01	日+英	C+E	ー	「グロスタA」先修
6	応用言語学	Applied Linguistics	2	U-02-FLE-3-02	日+英	C+E	ー	「グロスタA」先修
5	通訳・翻訳研究A	Interpreting and Translation Studies A	2	U-02-LIN-3-02	日+英	G+C	ー	「グロスタA」先修☆
6	通訳・翻訳研究B	Interpreting and Translation Studies B	2	U-02-LIN-3-03	日+英	G+C	ー	「グロスタA」先修☆
5・6	English for Global Studies	English for Global Studies	2	U-02-LIN-3-21	英語	C	ー	「グロスタA」先修

7	英語教育特殊研究	Teaching English as a Foreign Language	2	U-02-ESS-4-01	日+英	G+C+E	ー	☆
5	Globalization of Education	Globalization of Education	2	U-02-SOE-3-01	英語	G+C	ー	「グロスタB」先修
5	国際政治経済学	International Political Economy	2	U-02-POL-3-03	英+日	G+C+E	ー	「グロスタB」先修
6	多国籍企業論	Multinational Corporations	2	U-02-ECP-3-01	日+英	G+E	ー	「グロスタB」先修☆
5	国際人権論	International Human Rights	2	U-02-PUL-3-01	日本語	E	ー	「グロスタC」先修
5	グローバリゼーションとエシックス	Globalization and Ethics	2	U-02-ECP-3-01	日+英	G+E	ー	「グロスタC」先修
6	グローバル市民社会論	Global Civil Society	2	U-02-SOC-3-01	日+英	G+E	ー	「グロスタC」先修☆
5・6	海外キャリア実践Ⅰ	Work Experience Abroad Ⅰ	2	U-02-CAE-3-01	日+英	キャリア	ー	☆
6・7	海外キャリア実践Ⅱ	Work Experience Abroad Ⅱ	4	U-02-CAE-3-02	日+英	キャリア	ー	「海外キャリア実践Ⅰ」先修☆
7・8	卒業論文	Graduation Thesis	4	U-02-GLS-4-03	別指定	ー	ー	

■学科専攻科目【演習科目】（必修）（卒業要件：10単位）

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
3・4	プロジェクト演習	Project-based Seminar	2	U-02-GLS-2-01	英+日	ー	ー	★
5	演習Ⅰ	Thesis Seminar Ⅰ	2	U-02-GLS-3-01	別指定	ー	ー	「リサーチ方法論AまたはB」先修
6	演習Ⅱ	Thesis Seminar Ⅱ	2	U-02-GLS-3-02	別指定	ー	ー	「リサーチ方法論AまたはB」先修
7	演習III	Thesis Seminar III	2	U-02-GLS-4-01	別指定	ー	ー	「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」先修
8	演習IV	Thesis Seminar IV	2	U-02-GLS-4-02	別指定	ー	ー	「リサーチ方法論AまたはB」先修

■学科専攻科目【留学/専攻基礎】

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
3	Study Abroad Project A	Study Abroad Project A	6	U-02-FGN-2-15	英+日	留学	○	留学科目22単位が溢れた場合は、「専攻基礎」で認定
4	Study Abroad Project B	Study Abroad Project B	6	U-02-FGN-2-16	英+日	留学	○	
1	海外研修	Overseas Study Trip	4	U-02-GLS-1-02	英語	留学	○	

■国際学部関連科目

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
1	グローバル・キャリア入門	Career Foundation Studies	2	U-02-CAE-1-01	日本語	キャリア	ー	登録必修★

■その他

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
2	キャリア実習・実習指導	Career Practicum	2	U-01-CAE-1-02	ー	ー	ー	・履修（単位認定）は1，2年生のみ ・フリーゾーンによる認定

■国際文化学科提供科目

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	講義言語	領域	留学実践	備考
3	実践フランス語A	Practice of French Language A	2	U-01-FGN-2-25	ー	ー	ー	
4	実践フランス語B	Practice of French Language B	2	U-01-FGN-2-26	ー	ー	ー	
3	実践中国語A	Practice of Chinese Language A	2	U-01-FGN-2-35	ー	ー	ー	
4	実践中国語B	Practice of Chinese Language B	2	U-01-FGN-2-36	ー	ー	ー	
3	実践コリア語A	Practice of Korean Language A	2	U-01-FGN-2-45	ー	ー	ー	
4	実践コリア語B	Practice of Korean Language B	2	U-01-FGN-2-46	ー	ー	ー	
3	ペルシア語セミナーⅠ	Persian Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-81	ー	ー	ー	選択履修可能科目 注釈⑨参照
4	ペルシア語セミナーⅡ	Persian Seminar Ⅱ	2	U-01-FGN-2-82	ー	ー	ー	
3	トルコ語セミナーⅠ	Turkish Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-83	ー	ー	ー	
4	トルコ語セミナーⅡ	Turkish Seminar Ⅱ	2	U-01-FGN-2-84	ー	ー	ー	
3	アラビア語セミナーⅠ	Arabic Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-85	ー	ー	ー	
4	アラビア語セミナーⅡ	Arabic Seminar Ⅱ	2	U-01-FGN-2-86	ー	ー	ー	
5	アラビア語セミナーⅢ	Arabic Seminar Ⅲ	2	U-01-FGN-3-81	ー	ー	ー	
3	スペイン語セミナーⅠ	Spanish Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-87	ー	ー	ー	
4	スペイン語セミナーⅡ	Spanish Seminar Ⅱ	2	U-01-FGN-2-88	ー	ー	ー	
3	ドイツ語セミナーⅠ	German Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-89	ー	ー	ー	
4	ドイツ語セミナーⅡ	German Seminar Ⅱ	2	U-01-FGN-2-90	ー	ー	ー	
1	宗教学概論	Introduction to Religious Studies	2	U-01-RES-1-01	ー	ー	○	選択履修可能科目/ 留学単位読替認定可能科目
4	国際関係と宗教	International Relations and Religion	2	U-01-RES-2-06	ー	ー	○	
4	比較宗教思想	Comparative Religious Thought	2	U-01-RES-2-11	ー	ー	○	
3	日本の経済と社会	Japanese Economy and Society	2	U-01-ARS-2-06	ー	ー	○	

5	マイグレーション研究C（国際労働移動）	Migration Studies C	2	U-01-SOC-3-02	ー	ー	○	
6	国際経済と日本	International Economy and Japan	2	U-01-ARS-3-04	ー	ー	○	
4	Race and Ethnicity入門	Introduction to Race and Ethnicity	2	U-01-SOC-2-02	ー	ー	○	
6	オセアニアと日本	Oceania and Japan	2	U-01-ARS-3-05	ー	ー	○	
4	マイグレーション研究A（多文化共生社会）	Migration Studies A	2	U-01-SOC-2-03	ー	ー	○	
3	観光文化論A	Tourism Culture A	2	U-01-TOU-2-06	ー	ー	○	
3	自然人類学入門	Introduction to Biological Anthropology	2	U-01-PHA-1-01	ー	ー	ー	留学単位読替認定可能科目
3	社会心理学	Social Psychology	2	U-01-SOP-1-01	ー	ー	ー	
3	宗教の世界史	History and World Religions	2	U-01-RES-1-02	ー	ー	ー	
3	社会学入門	Introduction to Sociology	2	U-01-SOC-1-01	ー	ー	ー	
3	文化人類学入門	Introduction to Cultural Anthropology	2	U-01-CUA-1-02	ー	ー	ー	
3	映像文化入門	Introduction to Visual Culture	2	U-01-ART-1-01	ー	ー	ー	
3	大衆文化入門	Introduction to Popular Culture Studies	2	U-01-CUA-1-03	ー	ー	ー	
3	世界文学入門	Introduction to World Literature	2	U-01-LIT-1-01	ー	ー	ー	
3	比較文化入門	Introduction to Comparative Culture	2	U-01-ARS-1-02	ー	ー	ー	
3	English Workshop A	English Workshop A	2	U-01-FGN-2-07	ー	ー	ー	
3	English Workshop B	English Workshop B	2	U-01-FGN-2-08	ー	ー	ー	
3	English Workshop C	English Workshop C	2	U-01-FGN-3-01	ー	ー	ー	
3	English Workshop D	English Workshop D	2	U-01-FGN-3-02	ー	ー	ー	
3	上級英語A	Upper Level English A	2	U-01-FGN-3-03	ー	ー	ー	
3	上級英語B	Upper Level English B	2	U-01-FGN-3-04	ー	ー	ー	
3	Advanced English A	Advanced English A	2	U-01-FGN-3-05	ー	ー	ー	
3	Advanced English B	Advanced English B	2	U-01-FGN-3-05	ー	ー	ー	
3	Advanced English C	Advanced English C	2	U-01-FGN-3-07	ー	ー	ー	
3	Advanced English D	Advanced English D	2	U-01-FGN-3-08	ー	ー	ー	
3	東西文化交渉論	Cultural Encounters between East and West	2	U-01-ARS-3-03	ー	ー	ー	
3	宗教文化の交流	Interaction of Religious Cultures	2	U-01-RES-3-04	ー	ー	ー	

3	宗教と共生社会	Religion and Co-existence Society	2	U-01-RES-2-04	―	―	―	
3	環境人類学	Environmental Anthropology	2	U-01-ENV-2-01	―	―	―	
3	環境保全論	Environmental Conservation	2	U-01-ENV-2-02	―	―	―	
3	NGO/NPO論	NGO/NPO Studies	2	U-01-SOC-2-01	―	―	―	
3	国際政治入門	Introduction to International Politics	2	U-01-POL-1-01	―	―	―	
3	都市計画	Urban Planning	2	U-01-TPA-3-01	―	―	―	
3	英語外書講読A	Intensive English Reading A	2	U-01-ENL-3-01	―	―	―	
3	英語外書講読B	Intensive English Reading B	2	U-01-ENL-3-02	―	―	―	
3	比較言語学	Comparative Linguistics	2	U-01-LIN-3-01	―	―	―	
3	Exploring Cultures	Exploring Cultures	2	U-01-FGN-2-09	―	―	―	
3	観光学入門	Introduction to Tourism Studies	2	U-01-TOU-1-01	―	―	―	
3	観光社会論	Tourism and Society	2	U-01-TOU-2-01	―	―	―	
3	国際観光論	International Tourism	2	U-01-TOU-2-04	―	―	―	
3	ホスピタリティ論	Hospitality Studies	2	U-01-TOU-2-02	―	―	―	
3	観光心理学	Psychology and Tourism	2	U-01-TOU-2-03	―	―	―	
3	観光文化論B	Tourism Culture B	2	U-01-TOU-2-07	―	―	―	

■注釈

① 「演習Ⅰ～Ⅳ」および「卒業論文」は所属する担当教員により使用言語が決定します。詳細は演習募集時の要項で確認して下さい。

② 講義言語について

「日＋英」・・講義では主に日本語を使用しながら、英語も使用して行う講義

「英＋日」・・講義では主に英語を使用しながら、日本語も使用して行う講義

③ 留学単位読替認定可能科目について

2年次以降の留学において留学先取得単位科目を龍谷大学の科目に読み替えて認定するための科目です。履修を実際に行う科目ではないので注意して下さい。

④ 領域について

G…Globalization領域

C…Communication領域

E…Ethics領域

G＋C…GlobalizationとCommunicationの複合領域（C＋E、E＋G、G＋C＋Eも同様）

⑤ 留学実践指定分野について

留学先科目で不合格などがあり、「留学科目」（卒業要件22単位）が未修得となる場合、留学後に修得することで「留学科目」単位となる科目です。留学前に修得済の場合、「留学科目」としては認定されません。

⑥ 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。（一部例外あり）

（例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能）

⑦ 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

詳細は時間割表およびWeb履修登録画面で確認してください。

⑧ ★☆は、国際学部としてキャリア教育科目として位置づけている科目です。
★キャリア啓発科目【進路動機付け科目】…キャリア意識を醸成する講義を行います。
☆キャリア形成科目【進路選択支援科目】…進路選択を支援する講義を行います。

⑨ 国際文化学科開講の※科目履修登録に際しては、登録時にTOEIC®L&R730／TOEFL®（550PBT、80iBT）、IELTS6.0のいずれかの語学スコアが必要です。履修希望者が多数の場合は、年次・GPA・志望理由書等に基づいて選考を行います。

【5】卒業の要件

卒業は大学が定める教育課程の修了であり、国際学部グローバルスタディーズ学科では、「学士（グローバルスタディーズ）」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。
卒業するためには、以下の要件を満たさなければなりません。

1．所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

2．所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定していることは前述のとおりです。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません（詳細は「卒業要件単位および学士号」にある表を参照）。

3．1セメスター以上の英語圏への留学

グローバルスタディーズ学科では、1セメスター以上の英語圏への留学を必修としています。留学する時期は原則として2年次ですが、交換留学制度を利用する場合は、3年次になる場合もあります。

4．英語運用能力測定テストの基準スコア提出

入学後から4年次第2学期（後期）の定められた期日までに以下の各種英語運用能力テストの内、基準スコアのいずれかの取得が必要です。

種別	TOEIC® L&R（IP含む）	TOEFL ITP®	TOEFL iBT®	IELTS™
スコア	730以上	550以上	80以上	6.0以上（Overall）

提出方法や時期については、「英語運用能力測定テストの基準スコア提出」を確認して下さい。

【6】演習および卒業論文の履修

1．プロジェクト演習（必修科目）

2年次に配当されているプロジェクト演習は必修科目です。卒業するためには必ず履修し、単位を取得しなくてはなりません。第1学期（前期）・第2学期（後期）共に開講されていますので、留学していない時期に履修して下さい。

（1）授業の形態

「プロジェクト演習（2単位）」は通常の授業と異なり、少人数グループでの議論とプレゼンテーションが中心となります。「グローバリゼーション領域」「コミュニケーション領域」「エシックス領域」からそれぞれ提示されるテーマに関して各グループで調査を行い、グルー

プ単位でプレゼンテーションを行います。授業では日本語と英語の両言語を使用します。
このプロジェクト演習での学修を通して、皆さんは3年次から所属するゼミでの研究の素養を身につけます。

（2） 2年次に1年間留学する場合

留学先で修得した科目に応じて、「プロジェクト演習（2単位）」として単位認定が可能です。あらかじめスーパーバイザーに単位認定を希望する旨を相談しておきましょう。そして帰国後の単位認定の際に「プロジェクト演習（2単位）」での認定を希望して下さい。
但し、留学先での学修結果によっては認定を受けられない場合もあります。
留学先で科目の合格が無い場合など、「プロジェクト演習（2単位）」での認定を受けられなかった場合は3年次以降にプロジェクト演習を履修します。

2．演習（ゼミ）（必修科目）

3〜4年次に配当されている「演習Ⅰ〜Ⅳ（各2単位）」は学部での学びの拠点として調査•研究の核となり「卒業論文（4単位）」を作成するためのベースとなります。必修科目ですので、卒業までに必ず「演習Ⅰ」〜「演習Ⅳ」までの計8単位を修得しなくてはなりません。また、演習Ⅰ〜Ⅳを履修するためには、先修科目である「リサーチ方法論AまたはB」を修得する必要があります。

（1）演習の募集について

① 演習の募集時期
2年次第2学期（後期）（10月中旬頃）です。詳しい日程に関してはmanaba courseでお知らせします。
② 演習募集説明
演習の履修および応募•選考方法に関する説明は、プロジェクト演習のなかで実施します。
③ 演習の応募方法
Manabaを利用して、「希望の担当教員」「志望動機と研究計画」を提出します。
④ 選考方法
学科会議において、各学生の所属演習を決定します。
⑤ 演習クラスの変更
演習クラスの変更を希望する場合、その受付時期は3年次の前期終了時および後期終了時となります。演習クラス変更の申し出があった場合は、当該の学生および所属する演習担当教員、変更希望先の演習 担当教員の三者で面談の上、変更の可否を決定します。

（2）演習が不合格となった場合

演習においては、「演習Ⅰ〜Ⅱ」「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」と成績が評価されます。
「演習Ⅰ〜Ⅱ」においては、通常の成績評価とは異なり、2セメスター履修後にまとめて成績が評価されます。

① 「演習Ⅰ〜Ⅱ」が不合格となった場合
3年次で履修した「演習Ⅰ〜Ⅱ」が不合格となった場合、4年次において「演習Ⅰ〜Ⅱ」を再履修し、5年次において「演習Ⅲ」と「演習Ⅳ」を受講します。よって、3年次に「演習Ⅰ〜Ⅱ」を合格できない場合、4年間では卒業できないことが確定します。
② 「演習Ⅲ」が不合格となった場合
前期の「演習Ⅲ」が不合格となった場合、後期に「演習Ⅲ」の再履修と「演習Ⅳ」を同時履修することは、可能です。

3．卒業論文（選択科目）

グローバルスタディーズ学科では卒業論文は選択科目です。そのため、必ず履修する必要はなく、選択しない場合は「学科専攻科目（専攻応用）」から4単位を代わりに修得して卒業に必要な単位を満たす事となります。履修については、演習担当教員と事前に相談する必要があります。

① 卒業論文の履修登録
4年次の初めに、当該年度の他の科目と一緒に履修登録します。卒業論文は通年科目のため、後期に履修登録することはできません。
② 卒業論文の再履修
4年次で卒業論文が不合格となった場合に限り、翌年度以降に再履修を許可します。
（4年次に履修していない場合は、翌年度以降の履修は認めません）
再履修に限り、1セメスターでの履修とするか、通年での履修とするか選択が可能なため、9月卒業を目指す場合も履修できます。再履修に必要な手続きは、卒業論文履修生に別途案内します。

③ 卒業論文作成の基本ルール
卒業論文の指導教員は演習担当者を原則としますが、必要に応じて、学生、演習担当教員、卒業論文指導担当教員の合意のもとに、演習担当者以外を卒業論文指導担当とすることができます。

（1）卒業論文執筆および提出要項

① 原稿作成スタイル•提出方法等については履修者を対象としてmanabaやポータルを使って連絡を行います。
② 卒業論文は、文書作成ソフト（Microsoft Word等）を用いて執筆するものとします。
③ 卒業論文は、日本語または英語を用いて書くものとします。
どの言語で作成するかについては指導教員にしっかり相談しましょう。
④ 卒業論文の長さは、日本語の場合、12,000字以上16,000字程度までとします。英文の場合、6,000words以上8,000words程度までとします。なお、字数にはレファレンスを含みます。
⑤ 卒業論文の提出スケジュールは、manabaもしくはWebポータルサイトで確認してください。
⑥ 卒業論文提出後に、口頭試問が実施されます。
⑦ 卒業論文のフォーマット等については、履修者にmanaba等で別途連絡を行います。

注意事項

卒業論文について、既存文書からの不正な転用等が認められたときは、「卒業論文」を無効扱いとし、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。

国際文化学科の教育課程

【1】国際文化学科での学びとその流れ

「多様な他者をつなぐ人材」となるために、「世界を学び、私を知る」

国際文化学科では、「多様な他者をつなぐ人材」の育成を目標としています。
多様な他者をつなぐ人材とは、例えば、異なる文化間に生じる問題を調整できる人材、世界に向けて日本文化を発信できる人材、そして国際社会における多様性の尊重に貢献できる人材などを指します。
そうした人材になるには、日本を含む世界の多様な言語と文化を学びつつ、豊かな教養を身につけ、コミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを高めていくことが重要です。そこで国際文化学科では、『世界を学び、私を知る』という基本理念を掲げ、入学した皆さんがそうした人材を目指して成長できるよう、体系的な教育課程（カリキュラム）を提供しています。
入学から卒業に至る、標準的な学びの流れは以下のようになります。この流れに沿って、何事にも主体的かつ積極的に取り組み、大学生活を充実させることで、皆さんは日本を含む世界を舞台に活躍できる「多様な他者をつなぐ人材」に近づくことができるはずです。

1．1年次

- 前期に「リサーチセミナーⅠ」、後期に「リサーチセミナーⅡ」を履修し、大学での学びに必要な基礎的な視座、知識、スキルなどを身につけます。
- 前期に「仏教の思想Ａ」、後期に「仏教の思想Ｂ」を履修し、龍谷大学の建学の精神を学び、龍谷大学生として求められる素養を身につけます。
- 外国語については、入学時の選択にもとづき、1言語型（英語のみ）または2言語型（初修外国語＋英語）のいずれかで週5回の授業を受けます。
- 教養教育科目や学科基礎科目のうち、興味・関心あるものを選択し履修します。

「大学での学び」とは、簡単に言えば、「自ら問題を発見･設定し、その解決のために資料を収集･分析し、レポートとして文書にまとめたり、プレゼンテーションしたりすること」です。その究極の目的は、「客観的な論拠を提示して他者を説得し、学術的な知見の蓄積と社会課題の解決に貢献すること」にあると言えるでしょう。知識の記憶と再現に重点を置く高校までの「学習」と異なり、大学では主体的に何をどのように学ぶかを決め、その問いに対する主張や根拠を世界共通のルールでまとめていく「研究」が求められます。
国際文化学科の新入生は、そうした大学での学びに必要な基礎を固めるべく、前期に「**リサーチセミナーⅠ**」、後期に「**リサーチセミナーⅡ**」を履修します。また、龍谷大学生として、本学の建学の精神を涵養すべく、教養教育科目のうち「**仏教の思想Ａ**」と「**仏教の思想Ｂ**」も履修します。これら4科目は必修科目であり、これら科目の単位を修得しないと卒業することができません。
同時に、外国語能力を重視する国際文化学科では、1年次から外国語を重点的に学びます。外国語は、**1言語集中型（英語のみ週5回）**と**2言語型（フランス語／中国語／コリア語のいずれか週3回＋英語週2回）**があり、入学時にどちらかの履修パターンを選びます（外国人留学生は日本語のみ選択可）。英語の習得に集中するか、英語に加えてもう一つ外国語を学ぶか。必修外国語の選択に関しても、上述した主体性が早速求められます。
概して1年次は外国語を含めて必修科目が多く、時間割を自分で自由に組む余地はそれほど多くありません。ただし選択科目も存在します。1学期（セメスター）で履修できる単位数の上限に気をつけながら、**「教養教育科目」**や**「学科基礎科目」**から興味や関心のある科目を選択し履修します。不明な点がある場合は、教務課スタッフやリサーチセミナー担当教員に質問しましょう。
国際学部生であれば海外留学にも積極的に挑戦してください。海外留学には様々な種類･期間･制度があります。いずれも相応の準備期間や費用が必要になります。海外留学を希望する場合は、1年次から早めに情報収集や語学の勉強を開始しましょう。国際学部生の留学に関しては、グローバル教育推進センター内に設置された「留学サポートデスク」スタッフが相談等に応じてくれます。

2．2年次

- 「リサーチセミナーⅢ」を履修し、1年次に習得した「大学での学び」の基礎を深めます。

- 留学や海外インターンの予定がある場合は、リサーチセミナーIIIの代わりに「海外研修（異文化交流）」を履修することもできます。
- 引き続き1年次に選択した外国語（英語または初修外国語）を履修し、外国語能力のさらなる向上を目指します。
- より専門的に「世界を学び、私を知る」ことができる学科専攻科目の受講が始まります。
- 学科専攻科目として、必修外国語以外の多様な外国語も学ぶことができます。
- 後期に3年次から所属を希望する演習（ゼミ）を決めます。

国際文化学科では、2年次で基礎学力や外国語能力を確実なものとし、3年次から専門演習（いわゆるゼミ）などを通じて学びを深めるカリキュラムとしています。
そのため2年次に、学科専攻科目の1つである「**リサーチセミナーIII**」を履修し、大学での学びに必要となる知識やスキルに磨きをかけます。なお、海外留学や海外インターンを予定している場合は、リサーチセミナーIIIの代わりに「**海外研修（異文化交流）**」を履修します。
これらの2科目は「選択登録必修」であり、いずれかを必ず履修登録しなければなりません。
外国語については、引き続き選択した外国語（英語／フランス語／中国語／コリア語のいずれか）を週3回学び、運用能力をさらに高めていきます（外国人留学生は日本語）。
また、自身の興味･関心や将来のキャリア展望にもとづき、それぞれの科目区分ごとに定められた卒業要件単位数を満たすよう、「**教養教育科目**」、「**学科基礎科目**」、「**学科専攻科目**」を履修していきます。1年次に比べ授業を選択できる余地が増えますので、授業の概要や詳細についてまとめられたシラバスを熟読し、主体的に自分の学びをデザインしましょう。
学科専攻科目は、共通科目と5つの科目群（**比較宗教、地域研究、人間と共生、メディアと社会、芸術・表現**）で構成されています。
共通科目には、学科独自の修了証を発行する国際ツーリズムプログラム（ITP）関連科目、キャリア関連科目、多様な言語文化を学べる科目（ペルシア語、トルコ語、アラビア語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語）などがあります。また、これまで学んできた英語･フランス語･中国語･コリア語についても、より高度で実践的な内容の科目が準備されています。
5つの科目群については、特に制約なく自由に履修できます。特定の科目群に集中して深く掘り下げる、主専攻と副専攻を自分なりに決めてバランスをとる、敢えて科目群を横断して幅広く学ぶなど、多様な履修パターンが考えられます。入学までの基礎的な学びを土台に、主体性をもって自分なりの方針と計画性をもって科目を選択してください。
2年次の後期には、3年次以降に所属する演習（ゼミ）を選びます。ゼミは大学生活後半の柱となる専門教育です。20人前後の少人数で、3年次～4年次を通じて担当教員の指導や助言を受けながら、大学生活の集大成となる卒業論文（または卒業制作）を完成させていきます。

3．3年次および4年次

- 3年次前期に「専門演習Ａ」を履修し、担当教員の指導や助言を受けながら専門性を深めます。
- 3年次後期に「専門演習Ｂ」を履修し、卒業論文（または卒業制作）に向けた準備を進めます。
- 卒業論文（卒業制作）は、4年次に「卒論演習Ａ」と「卒論演習Ｂ」を履修して進めます。
- 専門演習Ｂの単位未修得の場合、卒業論文（または卒業制作）はせず、代わりに4年次に「国際文化Study Project」（Ａ～Ｄ）を履修します。
- キャリア実習を含む就職活動が3年次後期から4年次前期にかけて徐々に本格化します。うまくスケジュールを管理して学業と両立できるようにしましょう。
- 科目区分ごとの卒業要件単位に達するまで、引き続き計画的に授業を履修します。

3年次前期には、必修科目として「専門演習Ａ」を履修します。専門演習Ａでは、担当教員の指導や助言を受けながら、各ゼミの専門性ならびに自身の興味･関心を踏まえた研究を進めます。なお、専門演習Ａは必修科目の「リサーチセミナーⅠ」を修得していないと履修できません。
また、3年次後期には、登録必修科目として「専門演習Ｂ」を履修します。専門演習Ｂは、卒業論文を書く（卒業制作をする）かどうかを見極める授業となります。専門演習Ｂの単位を落とした場合、卒業論文（卒業制作）をすることはできず、代わりに4年次に「国際文化Study Project」（Ａ～Ｄの4科目）を履修して卒業します。専門演習Ｂの単位を修得した場合は、4年次前期に「卒論演習Ａ」、4年次後期に「卒論演習Ｂ」をそれぞれ履修し、卒業論文（または卒業制作）を完成させます。なお、卒論演習Ａは専門演習Ｂを修得していないと履修できません。
同時に、科目区分ごとに定められた卒業要件単位数を満たすまで、引き続き授業を履修していきます。4年次後期末の段階で科目区分ごと

の卒業要件単位を1つでも満たしていない場合、卒業ができなくなります（＝留年）ので注意しましょう。
なお、3年次後期から4年次前期にかけて、キャリア実習を含めて就職活動が徐々に本格化します（企業によって時期は異なります）ので、龍谷大学キャリアセンターが発信する様々な情報や主催イベントに敏感になりましょう。就職活動の時期になると、平日でも企業の説明会や面接が頻繁におこなわれますし、企業が課す筆記試験の対策や企業研究などで忙しくなります。学業と就職活動を両立できるようスケジュールをうまく管理しましょう。こうした場面でも、大学生ならではの自主性が求められることになります。

【2】科目区分と卒業に必要な単位数

国際文化学科の学生が受講できる授業は、「科目区分」と呼ばれるグループに分類されています。それぞれの科目区分ごとに卒業に必要な単位数や必修科目が定められています。裏返せば、いくら単位を多く取っても、科目区分ごとに定められた要件を満たさなければ卒業することはできません（ある科目区分で修得した単位を、他の区分に置き換えることはできません。フリーゾーンは除く）。
本履修要項をよく読み、また、不明な点は教務課に直接確認するなどして、以下条件を満たすよう計画的かつ正確な履修を心がけてください。詳細は下表のとおりです。

科目区分	卒業要件単位	備考
学科外国語科目	20単位以上	1年次：＜英語週5回＞または＜初修外国語週3回＋英語週2回＞ （必修･14単位） 2年次：＜英語週3回＞または＜初修外国語週3回＞ （必修･6単位） ※外国人留学生は日本語のみ履修可
教養教育科目	18単位以上	仏教の思想Ａ、仏教の思想Ｂ（必修･4単位） 人文科学系科目から2単位以上（選択必修） 社会科学系科目から2単位以上（選択必修） 自然科学系科目から2単位以上（選択必修） その他選択科目（8単位以上）
学科基礎科目	16単位以上	リサーチセミナーⅠ、リサーチセミナーⅡ（必修･4単位） その他選択科目（12単位以上）
学科専攻科目	50単位以上	･リサーチセミナーIIIまたは海外研修（異文化交流）（選択登録必修･2単位） ･専門演習Ａ（必修･2単位） ･専門演習Ｂ（登録必修）で卒業論文執筆適性を見極める。 【専門演習Ｂ合格者】 ･専門演習Ｂ（2単位）、卒論演習Ａ（3単位）、卒論演習B（3単位）。 【専門演習Ｂ不合格者】 ･国際文化Study Project Ａ～Ｄ（合計8単位）。 ･その他選択科目（40単位以上）
フリーゾーン	20単位以上	各科目区分で修得した余剰単位のほか、コンソーシアム京都単位互換科目、グローバルスタディーズ学科提供科目など。
合計	124単位以上	

1．学科外国語科目（卒業要件：20単位以上）

「多様な他者をつなぐ人材」として社会で活躍していく上で、外国語の習得は重要です。そのため国際文化学科のカリキュラムでは外国語科目の比重が大きく、20単位以上の修得を求めています。
学科外国語科目は、英語／フランス語／中国語／コリア語、そして外国人留学生を対象とする日本語の5言語で構成され、いずれも少人数教育を特色としています。
国際文化学科の学生は、①1言語集中型（英語のみ）、または②2言語型（フランス語／中国語／コリア語のいずれか＋英語）のどちらかを入学時に選択します。世界共通語としての重要性から、英語はいずれのパターンでも必ず1年次には学ぶことになります。
1言語集中型は1年次に週5回、2年次に週3回の英語授業があります。2言語型では、1年次に初修外国語（フランス語／中国語／コリア語）

週3回＋英語週2回、2年次に初修外国語週3回の授業を受けます。外国人留学生は日本語のみを2年間学びます。日本語の授業は1年次に週5回、2年次に週3回あります。
※上記以外の外国語を学習したい場合や、学生生活を通じて外国語の習得に力を入れたい場合は、学科専攻科目として開講されている外国語関連科目（日本語を含めて12言語の授業があります）を履修することができます。

2.教養教育科目（卒業要件：18単位以上）

教養教育科目は、より広い視野から学生の興味･関心や研究テーマについて理解を深めることを目的としています。人文／社会／自然／スポーツの分野に属する科目で構成され、他学部生と一緒に受講します。多様な科目が揃っていますので、自分自身の興味･関心･進路希望などに応じて選択･履修してください。なお、教養教育科目のうち、本学の建学の精神を涵養する科目として、「仏教の思想Ａ」と「仏教の思想Ｂ」（各2単位）は必修です。また、少なくとも人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目からそれぞれ2単位以上を履修する必要があります。
詳細については、「教養教育科目の教育目的および履修方法」を参照してください。

3．学科基礎科目（卒業要件：16単位以上）

国際文化学科の学生として、入学後の早い段階で接しておくべき入門的な内容を集めた科目区分です。学科基礎科目には多様な科目を配置しています。自分自身の興味や関心に応じて科目を選択し、大学生活を通じて何を学び研究したいのか、将来どのようなキャリアを志望するのか見極めてみてください。
基礎科目のうち、「リサーチセミナーⅠ」と「リサーチセミナーⅡ」（各2単位）は必修です。
リサーチセミナーⅠでは少人数教育を通じて、資料収集とレポート執筆を中心に、大学での学びで必要となる知識や技法の基礎を身につけます。リサーチセミナーⅡでは、リサーチセミナーⅠの学修内容を再確認しつつ、学術研究に関する知識や研究方法を幅広く学び、大学での学びの基礎を完成させていきます。

4．学科専攻科目（卒業要件：50単位以上）

国際文化学科での学びの根幹となるもので、学科基礎科目での学修内容を土台に、さらに発展した内容を専門的に学ぶ科目区分です。学生の多様な興味･関心に応じられるよう、全科目区分のうち最も多い科目数を揃えています。専攻科目の多くは2年次以降から履修できるようになります（一部科目は1年次から履修可）。
このうち、「リサーチセミナーⅢ」（2単位）、「海外研修（異文化交流）」（2単位）のいずれかは必ず履修しなければなりません（選択登録必修）。リサーチセミナーⅢは、担当教員の専門性を生かした多様な授業内容が用意され、1年次に履修したリサーチセミナーと、大学生活後半の専門的な学びの橋渡しを担います。海外文化研修（異文化交流）は、学生の自発的な海外留学や海外インターンシップ経験について、事前学習や帰国後のレポート提出などをもって単位を認定するものです。
また、専攻科目のうち唯一の必修科目となるのが「専門演習Ａ」（2単位）です。続く「専門演習Ｂ」（2単位）は必ず履修登録しなければならない登録必修科目になります。
専門演習ＡおよびＢを通じて、担当教員の指導と助言を受けながら自らの研究関心を明確にし、卒業論文または卒業制作に対する意欲や適性を見極めます。学生自身が卒業論文（卒業制作）を希望し、かつ、担当教員が適格と判断した場合は専門演習Ｂの単位が認められます。その一方で、学生自身が卒業論文（卒業制作）を希望しない場合、または、当該学生について担当教員が卒業論文（卒業制作）は困難であると判断した場合、専門演習Ｂは単位が認められず未修得となります。
専門演習Ｂの単位を修得した場合は、4年次に「卒論演習Ａ」および「卒論演習Ｂ」（各3単位）を履修し、指導教員の助言を受けつつ、1年かけて卒業論文または卒業制作を完成させます。専門演習Ｂを未修得の場合は、代わりに4年次に「国際文化Study Project（ICSP）」（Ａ～Ｄ、各2単位で計8単位）を順次履修します。ICSP（Ａ～Ｄ）では、担当教員の指導や助言を受けつつ、Ａ～Ｄそれぞれで一定の学習または研究成果をまとめます。
3年次以降のこれら科目の関係は以下のようになります。

3年第1学期（前期）	3年第2学期（後期）	4年第1学期（前期）	4年第2学期（後期）	単位数

<table>
<tr><td rowspan="2">専門演習Ａ
（必修）
2単位</td><td rowspan="2">専門演習Ｂ
（登録必修）
2単位</td><td>単位修得
（卒業論文あり）</td><td colspan="2">卒論演習Ａ
3単位</td><td colspan="2">卒論演習Ｂ
3単位</td><td rowspan="2">合計
10単位</td></tr>
<tr><td>単位未修得
（卒業論文なし）</td><td>ICSP A
2単位</td><td>ICSP B
2単位</td><td>ICSP C
2単位</td><td>ICSP D
2単位</td></tr>
</table>

上記以外の学科専攻科目は、以下のように、5つの科目群と共通科目に分けられています。共通科目には、外国語（英語、フランス語、中国語、コリア語、ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語、日本語）のほか、国際ツーリズムプログラム（ITP）関連科目、キャリア関連科目などが含まれます。

① 比較宗教群
② 地域研究群
③ 人間と共生群
④ メディアと社会群
⑤ 芸術･表現群
⑥ 共通科目※外国語、国際ツーリズムプログラム（ITP）、キャリア関係科目など

上述した専門演習Ａから卒論演習またはICSPに至る10単位以外については、いずれの科目群からも自由に履修することができます。入学当初の想いや将来の希望などを勘案し、残る40単位分の履修計画を立ててください。

5．フリーゾーン（卒業要件：20単位以上）

卒業要件124単位のうち、上記科目区分でそれぞれ定められた単位数を差し引くと20単位が不足します。これを「どの科目区分にも該当しない領域」という意味でフリーゾーンと呼びます。
フリーゾーンは、学生自身の興味や関心にもとづき、制約なく自由に履修できる区分です。学科外国語科目、教養教育科目、学科基礎科目、学科専攻科目のいずれを履修しても構いません。上記科目区分の卒業要件単位数（例：学科基礎科目であれば16単位）を越えて修得した単位は、自動的にフリーゾーンの単位数としてカウントされます。
また、グローバルスタディーズ学科開講科目のほか、コンソーシアム京都単位互換科目、留学･国際交流プログラム、各種キャリア実習などの単位もフリーゾーンで認定されます。こうした授業科目の一部には受講条件が設定されているものがあります。詳細については本履修要項を確認してください。

6．その他（単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、本願寺派教師資格課程など）

単位互換科目制度とは、国際文化学科にはない科目を補うため、「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度を利用し、大学コンソーシアム京都加盟の他大学で開講されている科目（産学連携教育プログラムを含む）や、放送大学の科目を履修するものです。
また、国際文化学科では、「中学校教諭一種免許（英語）」、「高等学校教諭一種免許（英語）」、「博物館学芸員」、「本願寺派教師」、「ICCO文化交流創成コーディネーター」などの資格を取得できます。これらの資格を取得するには、それぞれの課程が定めた科目を修得する必要があります。
これらについての詳細は、履修要項の該当ページを確認してください。また、不明な点があれば教務課や教職センターに確認･相談してください。

【3】国際ツーリズムプログラム（International Tourism Program）について

1．制度の概要

国際ツーリズムプログラム（International Tourism Program、以下ITP）は、国際文化学科生の自らを旅行者として捉える観光への関心、また、就職先としての旅行･観光業界への関心の高まりを背景に設置されたものです。
ITPについては申込みなど事前の手続きは不要です。卒業までに修了要件を充足した場合、インターンシップ経験および関連知識の修得を認定するものとして、国際文化学科が発行する「ITP修了証」を申請することができます。

本プログラムは、龍谷大学が立地する京都を筆頭に、諸外国から日本を目指す観光客（いわゆる「インバウンド」）の急増と、世界的規模で拡大する観光人口の動向に対応しようとするものです。国際文化学科の卒業生が、観光を通じた世界と日本の相互交流を架橋ならびに創出できる人材となるよう、実務的側面も含めた多様な科目を提供しています。

2．修了要件

下記（1）（2）を併せて、合計20単位を修得することが修了認定の条件となります。

（1）「リサーチセミナーIII」（2単位）のうち、指定されたプログラムを修得すること。
（2）学科専攻科目のうち、以下に掲げるITP関連科目から18単位以上を修得すること。
＜ITP関連科目＞
【1年次から履修できるもの】
「観光学入門」、「旅行の法律」、「旅行の契約」※いずれも2単位
【2年次から履修できるもの】
「観光社会論」、「ホスピタリティ論」、「観光心理学」、「国際観光論」、「観光文化論Ａ」、「観光文化論Ｂ」、「京都観光学Ｂ」、「文化・観光政策」、「国内旅行の実務」、「海外旅行の実務」「国際文化学特別講義B（エアラインビジネス論）」　※いずれも2単位
【3年次から履修できるもの】
「京都観光学Ａ」、「実践フランス語Ｃ」、「実践フランス語Ｄ」、「実践コリア語Ｃ」、「実践コリア語Ｄ」、「実践中国語Ｃ」、「実践中国語Ｄ」、「English Workshop Ｃ」、「English Workshop Ｄ」※いずれも2単位
【キャリア実習】
キャリア実習とは、龍谷大学が提供する「キャリア実習・実習指導」（2単位）または大学コンソーシアム京都が提供する「産学連携教育プログラムのエクスターンシップ」（4単位）のうち、指定された受入先における実習を2単位または4単位として修了認定します。

【4】キャリア教育とキャリアデザイニング

社会経済のグローバル化と国内の少子化を背景に、日本でも外国から人材を受け入れる傾向が強まっています。その帰結として、日本社会の構成員が文化･民族･宗教などの面で多様化する「内なるグローバル化」が進んでいます。
内なるグローバル化は日本社会を豊かにし、私たちの視野を広げます。その一方で、生活習慣や価値観の違いが文化的摩擦を生むことも否定できません。それゆえ、日本社会の内なるグローバル化が進むほど、「多様な他者をつなぐ人材」としての素養を身につけた国際文化学科生が活躍できる領域は広がっていくと考えられます。
以下では、学科の人材育成方針や教育課程をふまえ、国際文化学科の卒業生にどのようなキャリアが考えられるか、どのようなキャリア関連科目やプログラムがあるかについてまとめておきます。卒業後のキャリアについて考え始めるのが早いほど、目標（＝こうなったら成功と思える姿）が明確になり、大学生活を充実させることにつながります。龍谷大学キャリアセンターや学外のイベント等も有効活用しながら、自身の将来について早めに考えるようにしましょう。

1．想定する進路

国際文化学科での学びを活かしやすいと考えられる業界･職種･職業として、例えば次のようなものが挙げられます（あくまで一例です）。

- 顧客や社員の文化的多様性が顕著な企業（多国籍企業、グローバル企業など）
- 海外展開に積極的な日本企業
- 企業におけるダイバーシティマネジメント業務、広報業務
- 国家公務員（特に外務省、出入国在留管理庁、観光庁、税関職員、航空管制官など）
- 地方公務員（地方自治体の多文化共生推進部門）、国際交流に関する公益法人など
- 地方自治体の観光振興部門、観光に関する公益法人など
- 地方自治体の芸術･文化振興部門、芸術･文化に関する公益法人、企業のメセナ部門など
- 地方自治体の都市計画、住宅行政部門など
- 国際協力、多文化共生、文化遺産、自然環境などに関するNGOやNPO
- 公立および私立学校における英語科教員（中学、高校）
- 海外および国内における日本語教員
- 通訳、翻訳家（会議通訳、映像翻訳、通訳案内士など）

- 旅行業（旅行代理店、各種オペレータなど）、ツアーコンダクター
- 旅客運輸業（航空会社、鉄道会社、バス会社など）、ホテル･旅館などの宿泊業
- メディア業界（出版、放送、新聞、広告など）、コンテンツ産業（音楽、ゲーム、映画など）
- 浄土真宗本願寺派開教使（海外における布教活動）、宗教法人職員
- 国内外大学院への進学、起業

2．キャリア科目

国際文化学科では、キャリアデザインにとって参考となるキャリア関連科目を開講しています。必修科目ではありませんが、自身の将来を考える上で役に立ちますので、入学後の早い段階で履修することを推奨します。

① **キャリアデザイン入門**（学科基礎科目、2単位）※第1セメスターから履修可
責任ある仕事を体験する機会の少ない学生にとって、キャリアデザインへの早期からの取り組みが重要であることを実践的に学ぶ科目です。就職活動で有効なのは、「大学でどのような行動を起こし、何を得たのか」を自分の言葉で堂々と語ることです。本科目では、なぜそのような考え方が必要なのか、また、それを自分の言葉で語る重要性を学びます。
② **グローバル時代のキャリアデザイン**（学科専攻科目、2単位）※第3セメスターから履修可
現代では、キャリアデザインも社会経済のグローバル化を強く意識する必要があります。本科目では、世界経済の大きな変化を理解し、また、それを日本の文脈で捉え直し、今後どのようなキャリア形成が必要になるのかを学びます。授業では、受講者間での討議や発表機会もできるだけ導入し、受講者自らが主体的に学ぶ機会を追求します。

3．その他

- 企業や団体等でのキャリア実習は、就業機会が限られる学生に様々な経験を与えてくれます。すべての龍谷大学生を対象とした単位を修得できるプログラムとして、①大学コンソーシアム京都「産学連携教育プログラム」、②RYUKOKUキャリア･スタートプログラム、の2つがあります。また、企業が個別に実施するインターンシップやキャリアスタートに関するプログラムについても、1年次から参加できるものも含めて多数あります。「まずは行動から」を肝に銘じ、積極的に情報収集しましょう。
- 教養教育科目には「経済学のすすめ」（2単位）があります。また、学科専攻科目には「日本の経済と社会」（2単位）、「国際経済と日本」（2単位）があります。社会経済のグローバル化が進む現代にあって、日本を含む世界経済に関する知識と理解は大きく役立つはずです。積極的に受講してみましょう。
- 外国語の資格試験を念頭に置いた授業もあります。就職活動時に先立ち、自身の外国語能力を客観的に証明する公的資格を取得しておくことも有効です。上述したような進路に興味のある学生は、積極的にこうした授業も受講してみましょう。履修を希望する場合は事前にシラバスを熟読し、内容をしっかり確認するようにしてください。

資格試験名称	授業科目名･科目区分･単位数
TOEIC®L&R	Advanced English B （学科専攻科目、2単位）
実用フランス語技能検定試験	実践フランス語A・B （学科専攻科目、各2単位）
HSK（中国政府公認の中国語検定）	実践中国語A・B （学科専攻科目、各2単位）
韓国語能力試験	実践コリア語A・B （学科専攻科目、各2単位）

- 自ら起業することも立派なキャリア展開です。REC（龍谷エクステンションセンター）では、学生ベンチャー育成に関する様々な企画（教育事業、イベント事業、インキュベーション事業）を展開しています。龍谷大学生であれば、学部や学年を問わず誰でも参加することができます。
そのねらいは、①日本経済復興の鍵となる新事業や新産業創出のため、「大学発学生ベンチャー」の発掘や育成を行う、②新しい目標や課題に対して、積極的にアイデアを出し企画･実行していく応用能力や実践能力を養成し、チャレンジ精神、創造性の豊かな人材を社会に輩出することにあります。興味や関心がある学生は、ぜひ積極的にチャレンジしてみましょう。
- 卒業に必要な単位の修得はできませんが、ほかにも以下のような教育プログラムや講座が開講されています。興味のある人は情報収集に努め、積極的に受講しましょう。それぞれについての詳細は、教務課やキャリアセンターなどで確認してください。

教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程、ICCO文化交流創成コーディネーター資格認定制度、国際伝道者養成課程、矯正･保護課程、法職課程、教員採用試験対策講座、キャリア支援講座、公務員試験対策講座など

- 龍谷大学のキャリアセンター（5号館1階）を積極的に利用しましょう。各種セミナーや個別のカウンセリングがおこなわれるほか、職業･業界･職種･企業に関する豊富な資料を常時閲覧可能です。また、資格試験対策講座や公務員試験対策講座なども実施しています。「自分にはまだ早い」とは思わず、1年次から積極的に利用することを強く推奨します。

【5】履修方法・履修上の注意点

国際文化学科の学生は、卒業後に「多様な他者をつなぐ人材」、例えば、異なる文化間に生じる問題を調整できる人材、世界に向けて日本文化を発信できる人材、国際社会における多様性の尊重に貢献できる人材として活躍することが期待されます。
そうなるためには、龍谷大学の建学の精神を学びつつ、4年間で『世界を学び、私を知る』ことが求められます。また、高校までとは異なる大学での学びに一日でも早く慣れるよう、基礎的な知識や技法を計画的に習得することが期待されています。
国際文化学科では、学生が体系的にそれらを身につけ、着実に成長できる教育課程（カリキュラム）を準備していますが、守るべき履修上のルールもいくつかあります。このルールを守らないと4年間で卒業できなくなりますので、大学生活を通じて日常的に確認するようにしてください。

1．必修外国語の履修方法

国際文化学科では、「学科外国語」という科目区分で必修外国語を定めています。国際文化学科で開講されている必修外国語は、**英語・フランス語・中国語・コリア語・日本語**の5言語です。フランス語･中国語･コリア語は初級者を、英語は本学入学前に基礎を勉強した人を、日本語は母語が日本語以外の人（外国人留学生）を対象にしています。必修外国語は卒業までに20単位を修得しなければなりません。
必修外国語は、下表のとおり、入学時に1ヶ国語（英語週5回の1言語集中型）あるいは2ヶ国語（フランス語、中国語、コリア語のいずれかを週3回＋英語週2回の2言語型）を選択して受講します。

必修外国語の履修パターン（入学時に選択）

	1年次	2年次
1言語集中型	英語（週5回）	英語（週3回）
	日本語（週5回）※	日本語（週3回）※
2言語型	フランス語（週3回）＋英語（週2回）	フランス語（週3回）
	中国語（週3回）＋英語（週2回）	中国語（週3回）
	コリア語（週3回）＋英語（週2回）	コリア語（週3回）

1年次は、各言語のⅠ・Ⅱおよび「English Communication（EC）–Seminar A･B」（留学生は「日本語セミナー」）を合わせて週5回受講します。2年次は、各言語のⅢ･Ⅳを週3回受講します。必修外国語（学科外国語科目）の履修条件は以下のとおりです。なお、EC–Seminar Aでは討論手段としての英語を、EC–Seminar Bでは比較的高度な英文読解や英文法を学びます。なお、1年次第2セメスターで履修する「ECⅡ-SeminarB」においては、TOEICオンライン試験を全員が受検し、結果が成績に算入されます。また、英語1言語集中型の学生においては、結果によって、2年次の英語クラスが決定します。

① 留学生を含めて、母語を外国語として選択することはできません。
例1）「留学生入試」で入学された留学生は日本語を選択してください。
例2）「留学生入試」以外の入試で入学された留学生は、母語以外の言語を選択してください。
② 必修外国語は先修制となっています。ローマ数字（Ⅰ～Ⅳ）が付いた科目の場合、「○○Ⅰ」を修得していなければ、続く「○○Ⅱ」を履修することはできません。同様に、Ⅱ→Ⅲ、Ⅲ→Ⅳについても、それぞれ先行する科目を修得しなければ続く科目を履修できません。先行する科目を不合格となった場合、再履修する必要があります。
③ 1言語集中型の場合は、必修外国語として第1～第4セメスターでそれぞれⅠ～Ⅳ（各1単位）を履修します。また、第1～第2セメスターでは「ECⅠ・Ⅱ–Seminar A･B」（各2単位）も履修します。

例えば、英語を選択した場合、1年次（第1〜第2セメスター）は、「EC–Speaking Ⅰ・Ⅱ」、「EC– Writing Ⅰ・Ⅱ」、「EC–Reading Ⅰ・Ⅱ」の6科目（計6単位）と、「EC Ⅰ・Ⅱ–Seminar A･B」の4科目（計8単位）、合計14単位を履修します。2年次（第3〜第4セメスター）は、「EC–SpeakingIII･IV」、「EC–WritingIII･IV」、「EC–ReadingIII･IV」の6科目（計6単位）を履修します。
日本語の場合は、第1〜第4セメスターで「日本語Ⅰ〜Ⅳ」（各3単位）を履修します。また、第1〜第2セメスターでは「日本語セミナーA〜D」（各2単位）も履修します。

1言語集中型を選択した場合の必修外国語

1年次（英語週5回）				2年次（英語週3回）			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
EC Ⅰ–Speaking	1	EC Ⅱ–Speaking	1				
EC Ⅰ–Writing	1	EC Ⅱ–Writing	1	EC III–Speaking	1	EC IV–Speaking	1
EC Ⅰ–Reading	1	EC Ⅱ–Reading	1	EC III–Writing	1	EC IV–Writing	1
EC Ⅰ–Seminar A	2	EC Ⅱ–Seminar A	2	EC III–Reading	1	EC IV–Reading	1
EC Ⅰ–Seminar B	2	EC Ⅱ–Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

（EC：English Communication）

日本語を外国語とする場合（留学生対象）

1年次（日本語週5回）				2年次（日本語週3回）			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
日本語Ⅰ	3	日本語Ⅱ	3	日本語III	3	日本語IV	3
日本語セミナーA	2	日本語セミナーC	2				
日本語セミナーB	2	日本語セミナーD	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

④2言語型の場合は、選択した外国語（フランス語･中国語･コリア語のいずれか）につき、必修外国語として第1〜第4セメスターでそれぞれⅠ〜Ⅳ（各3単位）を履修します。また、第1〜第2セメスターでは「EC Ⅰ・Ⅱ–Seminar A･B」（各2単位）も履修します。2言語選択型の場合、1年次のみ英語も学修します。2年次（第3〜第4セメスター）では必修外国語としての英語はありません。

2言語型でフランス語を選択した場合の必修外国語

1年次（フランス語週3回＋英語週2回）				2年次（フランス語週3回）			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
フランス語Ⅰ	3	フランス語Ⅱ	3	フランス語III	3	フランス語IV	3
EC Ⅰ–Seminar A	2	EC Ⅱ–Seminar A	2				
EC Ⅰ–Seminar B	2	EC Ⅱ–Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

（EC：English Communication）

2言語型で中国語を選択した場合の必修外国語

1年次（中国語週3回＋英語週2回）				2年次（中国語週3回）			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
中国語 I	3	中国語 II	3	中国語III	3	中国語IV	3
EC Ⅰ–Seminar A	2	EC Ⅱ–Seminar A	2				
EC Ⅰ–Seminar B	2	EC Ⅱ–Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

（EC：English Communication）

2言語型でコリア語を選択した場合の必修外国語

1年次（コリア語週3回＋英語週2回）				2年次（コリア語週3回）			
第1セメスター	単位	第2セメスター	単位	第3セメスター	単位	第4セメスター	単位
コリア語 I	3	コリア語 II	3	コリア語III	3	コリア語IV	3
EC Ⅰ–Seminar A	2	EC Ⅱ–Seminar A	2				
EC Ⅰ–Seminar B	2	EC Ⅱ–Seminar B	2				
7単位		7単位		3単位		3単位	

（EC：English Communication）

2．学科専攻科目の科目群について

学びを究めるための学科専攻科目は、5つの科目群と共通科目から構成されています。各科目群のコンセプトは次のとおりです。学生はこれらの科目群および共通科目から好きな科目を選び、卒業までに50単位以上を修得する必要があります。ただし、後述するように、必修の「専門演習Ａ」と、それに続く10単位分の科目については一定のルールがあります。

比較宗教

仏教･キリスト教･イスラームなど世界の宗教文化の特色を理解し、共通点や相違点を比較分析します。宗教の観点から異文化理解と実践的交流を目指します。

地域研究

地域に特有の文化や社会･経済、人びとの生活を比較考察して、アジア･太平洋地域を中心とした相互理解を目指します。また、日本、特に本学の拠点である京都の地域文化を多角的に学び、多様化する文化的価値の本質を探究します。

人間と共生

人と自然、人と人の共生の現状と可能性を探ります。グローバル化や都市化にともなう人の移動や住環境、自然や社会の変化を対象として、理論とフィールドの両面から探究します。

メディアと社会

グローバル化と情報化が進む現代社会におけるメディアの役割･意義･課題などを探究します。また、自ら情報を発信する際に必要となる技法や倫理を学びます。

芸術・表現

芸術を通して、文化を国際的な視点で学んでいきます。美術、舞台芸術、文学、漫画などのアート表現を中心に、それらの理論と技法を多角的に研究します。

共通科目

上記5つの科目群に属さない科目です。学科独自の修了証を申請できる国際ツーリズムプログラム（ITP）関連科目のほか、演習系科目、キャリア関連科目、必修外国語とは別枠で学ぶ多様な外国語科目（12言語）などが含まれます。

3．国際ツーリズムプログラム（ITP）について

国際ツーリズムプログラム（ITP）は、卒業までに修了要件を充足した場合、インターン経験および関連する知識の修得を認定するものとして、国際文化学科が発行する「ITP修了証」を申請することができるものです。ITPについては事前の登録手続きは不要です。詳細はITPに関するページを確認してください。

4．専門演習および卒論演習について

一般に演習（ゼミ）とは、3〜4年次に配当され、同一の担当教員の指導の下、少人数（20人前後）で調査や研究を進める科目のことです。通常、大学生活の集大成となる卒業論文（または卒業制作）を仕上げることを主たる目的とします。

国際文化学科では、3年次前期に「専門演習Ａ」（2単位）を必修とし、そこからゼミがスタートします。続く3年次第2学期（後期）には「専門演習Ｂ」（2単位）を履修し、卒業論文（卒業制作）を作成するかどうかを見極めます。なお、専門演習Ａは、必修科目の「リサーチセミナーⅠ」を修得していないと受講することができません。

卒業論文（卒業制作）を作成する場合は、専門演習Ｂを修得した上で、4年次前期に「卒論演習Ａ」（3単位）、4年次後期に「卒論演習Ｂ」（3単位）を続けて履修し、ゼミ担当教員の指導と助言を受けながら、最終年度の1年をかけて卒業論文または卒業制作を完成させます。

演習担当教員が当該学生について卒業論文（卒業制作）を作成するのに十分な知識や能力が足りないと判断した場合、専門演習Ｂは未修得（不合格）のまま、4年次に「国際文化Study Project」Ａ〜Ｄの4科目
（各2単位）を代わりに履修し、卒業に必要な単位を修得します。

なお、所属する専門演習Ａの選択は2年次後期にします（応募者が定員を超えたゼミは選考がおこなわれます）。詳細については、別途ポータルサイト等を通じてお知らせします。

5．国際文化Study Projectについて

卒業論文（卒業制作）をしない場合に必ず修得する必要がある科目です。

4年次第1学期（前期）に「国際文化Study Project」ＡおよびＢ、4年次第2学期（後期）に「国際文化Study Project」ＣおよびＤを履修します（各2単位、計8単位）。授業担当教員の指導と助言を受けながら、自身の興味･関心も反映させた国際文化に関するテーマについて調査･分析･実験･制作などを進め、その結果をレポートにまとめたり、口頭発表したりします（具体的なテーマや進め方の詳細については担当教員によって異なります）。

6．必修科目の再履修について

必修科目を不合格となった場合、再度履修すること（再履修）が必要となります。科目によって再履修上のルールがありますので、再履修時はそれにしたがってください。詳細についてはポータルサイト等でお知らせします。また、再履修は卒業にも大きく関わってきますので、不明な点は必ずCampus HUBで確認するようにしてください。

①リサーチセミナーⅠおよびリサーチセミナーⅡ

リサーチセミナーⅠを再履修する場合は、指定されたクラスで再度受講してください。リサーチセミナーⅡを再履修する場合は、次の年次で再度受講してください。

②学科外国語科目（必修外国語）

再履修する場合は、指定されたクラスで受講してください。

③仏教の思想Ａおよび仏教の思想Ｂ

これらの科目を再履修する場合は、次の年次で再度受講してください。なお、3年次生以上は、同一セメスターにおいて、「仏教の思想Ａ」と「仏教の思想Ｂ」を同時に履修することが可能です。

学期	科目名
第1学期（前期）	「仏教の思想Ａ」・「仏教の思想Ｂ（再）」
第2学期（後期）	「仏教の思想Ｂ」・「仏教の思想Ａ（再）」

④専門演習Ａ

再履修する場合は、次の年次で再度受講してください。同じゼミ教員を希望する場合、同一セメスター（4年次前期）において、「専門演習Ａ」と「卒論演習Ａ」または「国際文化Study Project」 ＡおよびＢを同時に履修することが可能です。

7．開設科目

◎は必修科目 ●は選択必修科目として開講する基幹科目 ○は選択科目を示しています。ただし、それ以上の学年･セメスターであれば受講可能です（一部例外あり）。
（例：1年次配当科目であれば、2年次生･3年次生も受講可能）

■「仏教の思想」科目

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	備考
1	仏教の思想A		2	2科目（4単位）必修
2	仏教の思想B		2	
3	歎異抄の思想Ⅰ		2	
4	歎異抄の思想Ⅱ		2	

■教養教育科目開設科目

教養教育科目開設科目についてはこちらをご確認ください。

■学科外国語科目（必修）

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	備考
1	English Communication Ⅰ -Speaking	English Communication Ⅰ -Speaking	1	U-01-FGN-1-01	
1	English Communication Ⅰ -Writing	English Communication Ⅰ -Writing	1	U-01-FGN-1-02	
1	English Communication Ⅰ -Reading	English Communication Ⅰ -Reading	1	U-01-FGN-1-03	
1	English Communication Ⅰ -Seminar A	English Communication Ⅰ -Seminar A	2	U-01-FGN-1-04	
1	English Communication Ⅰ -Seminar B	English Communication Ⅰ -Seminar B	2	U-01-FGN-1-05	
2	English Communication Ⅱ -Speaking	English Communication Ⅱ -Speaking	1	U-01-FGN-1-06	
2	English Communication Ⅱ -Writing	English Communication Ⅱ -Writing	1	U-01-FGN-1-07	
2	English Communication Ⅱ -Reading	English Communication Ⅱ -Reading	1	U-01-FGN-1-08	
2	English Communication Ⅱ -Seminar A	English Communication Ⅱ -Seminar A	2	U-01-FGN-1-09	
2	English Communication Ⅱ -Seminar B	English Communication Ⅱ -Seminar B	2	U-01-FGN-1-10	
3	English CommunicationⅢ-Speaking	English Communication Ⅲ -Speaking	1	U-01-FGN-2-01	
3	English CommunicationⅢ-Writing	English Communication Ⅲ -Writing	1	U-01-FGN-2-02	

3	English CommunicationIII-Reading	English Communication III -Reading	1	U-01-FGN-2-03	
4	English CommunicationIV-Speaking	English Communication IV -Speaking	1	U-01-FGN-2-04	
4	English CommunicationIV-Writing	English Communication IV -Writing	1	U-01-FGN-2-05	
4	English CommunicationIV-Reading	English Communication IV -Reading	1	U-01-FGN-2-06	
1	フランス語Ⅰ	French Ⅰ	3	U-01-FGN-1-21	
2	フランス語Ⅱ	French Ⅱ	3	U-01-FGN-1-22	
3	フランス語III	French III	3	U-01-FGN-2-21	
4	フランス語IV	French IV	3	U-01-FGN-2-22	
1	中国語Ⅰ	Chinese Ⅰ	3	U-01-FGN-1-31	
2	中国語Ⅱ	Chinese Ⅱ	3	U-01-FGN-1-32	
3	中国語III	Chinese III	3	U-01-FGN-2-31	
4	中国語IV	Chinese IV	3	U-01-FGN-2-32	
1	コリア語Ⅰ	Korean Ⅰ	3	U-01-FGN-1-41	
2	コリア語Ⅱ	Korean Ⅱ	3	U-01-FGN-1-42	
3	コリア語III	Korean III	3	U-01-FGN-2-41	
4	コリア語IV	Korean IV	3	U-01-FGN-2-42	
1	日本語Ⅰ	Japanese Ⅰ	3	U-01-JLE-1-01	留学生のみ
2	日本語Ⅱ	Japanese Ⅱ	3	U-01-JLE-1-02	留学生のみ
3	日本語III	Japanese III	3	U-01-JLE-2-01	留学生のみ
4	日本語IV	Japanese IV	3	U-01-JLE-2-02	留学生のみ
1	日本語セミナーA	Japanese Seminar A	2	U-01-JLE-1-03	留学生のみ
1	日本語セミナーB	Japanese Seminar B	2	U-01-JLE-1-04	留学生のみ
2	日本語セミナーC	Japanese Seminar C	2	U-01-JLE-1-05	留学生のみ
2	日本語セミナーD	Japanese Seminar D	2	U-01-JLE-1-06	留学生のみ

■学科外国語科目（選択）

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	備考
1	語学研修A（英語）	Overseas Language Program A（English）	2	U-01-FGN-1-11	留学認定科目
1	語学研修B（英語）	Overseas Language Program B（English）	4	U-01-FGN-1-12	留学認定科目
1	語学研修A（フランス語）	Overseas Language Program A（French）	2	U-01-FGN-1-23	留学認定科目
1	語学研修B（フランス語）	Overseas Language Program B（French）	4	U-01-FGN-1-24	留学認定科目
1	語学研修A（中国語）	Overseas Language Program A（Chinese）	2	U-01-FGN-1-33	留学認定科目

1	語学研修Ｂ（中国語）	Overseas Language Program B（Chinese）	4	U-01-FGN-1-34	留学認定科目
1	語学研修Ａ（コリア語）	Overseas Language Program A（Korean）	2	U-01-FGN-1-43	留学認定科目
1	語学研修Ｂ（コリア語）	Overseas Language Program B（Korean）	4	U-01-FGN-1-44	留学認定科目
1	English language（RISE）	English language（Ryukoku Intercultural Program）	12	U-01-FGN-1-13	留学認定科目

■学科基礎科目

配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	備考
1	リサーチセミナーⅠ	Research Seminar I	2	U-01-LTE-1-01	必修★
2	リサーチセミナーⅡ	Research Seminar II	2	U-01-LTE-1-02	必修★
1	調査分析の基礎A	Fundamental Research Methods A	2	U-01-LTE-1-01	
2	調査分析の基礎B	Fundamental Research Methods B	2	U-01-LTE-1-02	
1	キャリアデザイン入門	Introduction to Career Design	2	U-01-CAE-1-01	★
2	東西文化交流入門	Introduction to East-West Cultural Exchanges	2	U-01-CUA-1-01	
1	宗教学概論	Introduction to Religious Studies	2	U-01-RES-1-01	
1	自然人類学入門	Introduction to Biological Anthropology	2	U-01-PHA-1-01	
2	環境共生論入門	Introduction to Environmental Co-existence	2	U-01-ENV-1-01	
1	都市計画入門	Introduction to Urban Planning	2	U-01-TPA-1-01	
1	社会心理学	Social Psychology	2	U-01-SOP-1-01	
1	言語論A	Language and Mind A	2	U-01-LIN-1-01	
2	宗教の世界史	History and World Religions	2	U-01-RES-1-02	
2	東アジアの地域交流	Regional Exchanges in Eastern Asia	2	U-01-ARS-1-01	
2	社会学入門	Introduction to Sociology	2	U-01-SOC-1-01	
1	文化人類学入門	Introduction to Cultural Anthropology	2	U-01-CUA-1-02	
2	映像文化入門	Introduction to Visual Culture	2	U-01-ART-1-01	
1	大衆文化入門	Introduction to Popular Culture Studies	2	U-01-CUA-1-03	
2	比較演劇入門	Introduction to Comparative Theatre	2	U-01-CUA-1-04	
1	世界文学入門	Introduction to World Literature	2	U-01-LIT-1-01	
1	比較文化入門	Introduction to Comparative Culture	2	U-01-ARS-1-02	
1	国際政治入門	Introduction to International Politics	2	U-01-POL-1-01	
2	観光学入門	Introduction to Tourism Studies	2	U-01-TOU-1-01	ITP科目☆

2	日本語教育入門	Introduction to Japanese Language Teaching	2	U-01-JLE-1-07	
1	国際文化学特別講義A	IC Special Lecture A	2	U-01-ICC-1-01	
2	キャリア実習･実習指導	Internship Practicum	2	U-01-CAE-1-02	履修（単位認定）は1、2年生のみ

■学科専攻科目

分野	配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	備考
必修・選択必修	3	リサーチセミナーIII	Research Seminar III	2	U-01-ICC-2-01	1科目（2単位以上）選択登録必修
	3	海外研修（異文化交流）	Study Abroad (Intercultural Communication)	2	U-01-ICC-2-01	
	5	専門演習A	Specialized Seminar A	2	U-01-ICC-3-01	必修
	6	専門演習B	Specialized Seminar B	2	U-01-ICC-3-02	登録必修
	7	卒論演習A	Thesis Seminar A	3	U-01-ICC-4-01	選択必修［専門演習B合格者］
	8	卒論演習B	Thesis Seminar B	3	U-01-ICC-4-02	選択必修［専門演習B合格者］
	7	国際文化Study Project A	IC Study Project A	2	U-01-ICC-3-01	選択必修［専門演習B不合格者］
	7	国際文化Study Project B	IC Study Project B	2	U-01-ICC-3-02	選択必修［専門演習B不合格者］
	8	国際文化Study Project C	IC Study Project C	2	U-01-ICC-4-01	選択必修［専門演習B不合格者］
	8	国際文化Study Project D	IC Study Project D	2	U-01-ICC-4-02	選択必修［専門演習B不合格者］
外国語	3	English Workshop A	English Workshop A	2	U-01-FGN-2-07	
	4	English Workshop B	English Workshop B	2	U-01-FGN-2-08	
	5	English Workshop C	English Workshop C	2	U-01-FGN-3-01	ITP科目☆
	6	English Workshop D	English Workshop D	2	U-01-FGN-3-02	ITP科目☆
	5	上級英語A	Upper Level English A	2	U-01-FGN-3-03	
	6	上級英語B	Upper Level English B	2	U-01-FGN-3-04	
	5	Advanced English A	Advanced English A	2	U-01-FGN-3-05	
	5	Advanced English B	Advanced English B	2	U-01-FGN-3-05	
	6	Advanced English C	Advanced English C	2	U-01-FGN-3-07	
	6	Advanced English D	Advanced English D	2	U-01-FGN-3-08	
	5	英語外書講読A	Intensive English Reading A	2	U-01-ENL-3-01	
	6	英語外書講読B	Intensive English Reading B	2	U-01-ENL-3-02	
	4	Exploring Cultures	Exploring Cultures	2	U-01-FGN-2-09	
	3	フランス語セミナーⅠ	French Seminar Ⅰ	4	U-01-FGN-2-23	
	4	フランス語セミナーII	French Seminar II	4	U-01-FGN-2-24	

5	フランス語セミナーIII	French Seminar III	4	U-01-FGN-3-21	
3	中国語セミナーⅠ	Chinese Seminar Ⅰ	4	U-01-FGN-2-33	
4	中国語セミナーII	Chinese Seminar II	4	U-01-FGN-2-34	
5	中国語セミナーIII	Chinese Seminar III	4	U-01-FGN-3-31	
3	コリア語セミナーⅠ	Korean Seminar Ⅰ	4	U-01-FGN-2-43	
4	コリア語セミナーII	Korean Seminar II	4	U-01-FGN-2-44	
5	コリア語セミナーIII	Korean Seminar III	4	U-01-FGN-3-41	
5	日本語セミナーE	Japanese Seminar E	2	U-01-JLE-3-01	留学生のみ
5	日本語セミナーF	Japanese Seminar F	2	U-01-JLE-3-02	留学生のみ
6	日本語セミナーG	Japanese Seminar G	2	U-01-JLE-3-03	留学生のみ
6	日本語セミナーH	Japanese Seminar H	2	U-01-JLE-3-04	留学生のみ
3	ペルシア語セミナーⅠ	Persian Seminar I	2	U-01-FGN-2-81	
4	ペルシア語セミナーII	Persian Seminar II	2	U-01-FGN-2-82	
3	トルコ語セミナーⅠ	Turkish Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-83	
4	トルコ語セミナーII	Turkish Seminar II	2	U-01-FGN-2-84	
3	アラビア語セミナーⅠ	Arabic Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-85	
4	アラビア語セミナーII	Arabic Seminar II	2	U-01-FGN-2-86	
5	アラビア語セミナーIII	Arabic Seminar III	2	U-01-FGN-3-81	
3	スペイン語セミナーⅠ	Spanish Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-87	
4	スペイン語セミナーII	Spanish Seminar II	2	U-01-FGN-2-88	
3	ドイツ語セミナーⅠ	German Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-89	
4	ドイツ語セミナーII	German Seminar II	2	U-01-FGN-2-90	
3	ロシア語セミナーⅠ	Russian Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-91	
4	ロシア語セミナーII	Russian Seminar II	2	U-01-FGN-2-92	
5	ロシア語セミナーIII	Russian Seminar III	2	U-01-FGN-3-82	
6	ロシア語セミナーIV	Russian Seminar IV	2	U-01-FGN-3-83	
3	ポルトガル語セミナーⅠ	Portuguese Seminar Ⅰ	2	U-01-FGN-2-93	
4	ポルトガル語セミナーII	Portuguese Seminar II	2	U-01-FGN-2-94	
5	ポルトガル語セミナーIII	Portuguese Seminar III	2	U-01-FGN-3-84	
6	ポルトガル語セミナーIV	Portuguese Seminar IV	2	U-01-FGN-3-85	
4	実践フランス語A	Practice of French Language A	2	U-01-FGN-2-25	
4	実践フランス語B	Practice of French Language B	2	U-01-FGN-2-26	
5	実践フランス語C	Practice of French Language C	2	U-01-FGN-3-22	ITP科目☆
6	実践フランス語D	Practice of French Language D	2	U-01-FGN-3-23	ITP科目☆
4	実践中国語A	Practice of Chinese Language A	2	U-01-FGN-2-35	

	4	実践中国語B	Practice of Chinese Language B	2	U-01-FGN-2-36	
	5	実践中国語C	Practice of Chinese Language C	2	U-01-FGN-3-32	ITP科目☆
	6	実践中国語D	Practice of Chinese Language D	2	U-01-FGN-3-33	ITP科目☆
	4	実践コリア語A	Practice of Korean Language A	2	U-01-FGN-2-45	
	4	実践コリア語B	Practice of Korean Language B	2	U-01-FGN-2-46	
	5	実践コリア語C	Practice of Korean Language C	2	U-01-FGN-3-42	ITP科目☆
	6	実践コリア語D	Practice of Korean Language D	2	U-01-FGN-3-43	ITP科目☆
5科目群・比較宗教	5	比較宗教学A (仏教)	Comparative Religion A (Buddhism)	2	U-01-RES-3-01	
	3	比較宗教学B (キリスト教)	Comparative Religion B (Christianity)	2	U-01-RES-2-01	
	5	比較宗教学C (イスラーム)	Comparative Religion C (Islam)	2	U-01-RES-2-02	
	5	現代社会と宗教A	Contemporary Society and Religion A	2	U-01-RES-3-02	
	4	現代社会と宗教B	Contemporary Society and Religion B	2	U-01-RES-2-03	
	4	宗教と共生社会	Religion and Co-existence Society	2	U-01-RES-2-04	
	5	宗教と民俗文化	Religion and Folk Culture	2	U-01-RES-3-03	
	4	宗教と芸術	Religion and Arts	2	U-01-RES-2-05	
	4	国際関係と宗教	International Relations and Religion	2	U-01-RES-2-06	
	6	宗教文化の交流	Interaction of Religious Cultures	2	U-01-RES-3-04	
	3	アジアの宗教文化	Asian Religious Culture	2	U-01-RES-2-08	
	4	中央アジアの文化	Cultures of Central Asia	2	U-01-RES-2-12	
	3	イスラームの歴史と文化	Islamic History and Culture	2	U-01-RES-2-09	
	3	世界の宗教と日本	World Religions and Japan	2	U-01-RES-2-10	
	3	日本の宗教思想	Religious Thought in Japan	2	U-01-RES-2-07	
	4	比較宗教思想	Comparative Religious Thought	2	U-01-RES-2-11	
5科目群・地域研究	3	日本語論文表現A	Academic Writing in Japanese A	2	U-01-JLN-2-01	留学生のみ
	3	日本語論文表現B	Academic Writing in Japanese B	2	U-01-JLN-2-02	留学生のみ
	3	日本語から見た歴史と文化	History and Culture from a Japanese Language Perspective	2	U-01-ARS-2-01	
	4	日本語教育実践	Japanese Teaching Practice	2	U-01-ARS-2-02	

	5	京ことばと京文化	Kyoto Dialect and Kyoto Culture	2	U-01-ARS-2-03	
	3	音声学概論	Introduction to Phonetics	2	U-01-LIN-2-01	
	6	比較言語学	Comparative Linguistics	2	U-01-LIN-3-01	
	5	日本の言語文化	Linguistic Culture in Japan	2	U-01-ARS-2-04	
	4	日本の近現代と国際関係	Japanese Modern Era and International Relations	2	U-01-ARS-2-05	
	3	日本の経済と社会	Japanese Economy and Society	2	U-01-ARS-2-06	
	4	アジアの文化遺産	Cultural Heritage Sites in Asia	2	U-01-ARS-2-07	
	5	東アジアの古代文化	Ancient Cultures in Eastern Asia	2	U-01-ARS-3-01	
	6	東北アジアの地域文化	Regional Cultures of Northeast Asia	2	U-01-ARS-3-02	
	5	東西文化交渉論	Cultural Encounters between East and West	2	U-01-ARS-3-03	
	6	国際経済と日本	International Economy and Japan	2	U-01-ARS-3-04	
	6	オセアニアと日本	Oceania and Japan	2	U-01-ARS-3-05	
	6	世界と日本の民俗	Folklore of the World and Japan	2	U-01-ARS-3-06	
5科目群・人間と共生	6	都市計画	Urban Planning	2	U-01-TPA-3-01	
	4	都市と住まい	Urban Housing Science	2	U-01-TPA-2-01	
	3	住環境計画	Residential Environment Planning	2	U-01-TPA-2-02	
	3	環境人類学	Environmental Anthropology	2	U-01-ENV-2-01	
	4	環境保全論	Environmental Conservation	2	U-01-ENV-2-02	
	3	北米の文化と社会A	Culture and Society in North America A	2	U-01-ARS-2-08	
	5	北米の文化と社会B	Culture and Society in North America B	2	U-01-ARS-3-07	
	4	NGO/NPO論	NGO/NPO Studies	2	U-01-SOC-2-01	
	4	自然と文化	Nature and Culture	2	U-01-BAB-3-01	
	4	Race and Ethnicity入門	Introduction to Race and Ethnicity	2	U-01-SOC-2-02	
	4	日本の思想	Japanese Thought	2	U-01-CUA-2-01	
	4	マイグレーション研究A（多文化共生社会）	Migration Studies A	2	U-01-SOC-2-03	
	5	マイグレーション研究B（社会統合論）	Migration Studies B	2	U-01-SOC-3-01	
	5	マイグレーション研究C（国際労働移動）	Migration Studies C	2	U-01-SOC-3-02	

5科目群・メディアと社会	3	グローバル社会学	Global Sociology	2	U-01-SOC-2-04	
	3	社会調査法	Social Research Methods	2	U-01-SOC-2-05	
	3	TVCMと社会	Television Commercials and Society	2	U-01-SOC-2-06	
	4	映像文化論	Visual Culture Studies	2	U-01-CUA-2-03	
	6	比較文化史	History of Comparative Culture	2	U-01-CUA-3-01	
	3	アメリカ映画論	Cultural and Social Issues in American Movies	2	U-01-CUA-2-04	
	5	表象文化論	Representation and Culture	2	U-01-CUA-3-02	
	4	アジアの大衆文化	Popular Culture in Asia	2	U-01-CUA-2-05	
	4	北米メディア論	North American Media Studies	2	U-01-ARS-2-09	
	6	国際比較文化論	Comparative Cultural Studies	2	U-01-CUA-3-06	
	3	現代ジャーナリズム論	Contemporary Journalism Studies	2	U-01-SOC-2-07	
	4	情報化とプロパガンダ	Information Society and Propaganda	2	U-01-SOC-2-08	
	4	情報文化論	Information and Culture	2	U-01-SOC-2-09	
	5	情報技術と未来社会	Information Technology and Future Society	2	U-01-SOC-3-03	
5科目群・芸術・表現	5	芸術表現特殊講義A	Artistic Expression Special Lecture A	2	U-01-CUA-3-03	
	3	芸術表現特殊講義B	Artistic Expression Special Lecture B	2	U-01-CUA-2-07	
	4	芸術表現特殊講義C	Artistic Expression Special Lecture C	2	U-01-CUA-2-08	
	3	芸術表現特殊講義D	Artistic Expression Special Lecture D	2	U-01-CUA-2-09	
	3	芸術表現特殊講義E	Artistic Expression Special Lecture E	2	U-01-CUA-2-10	
	6	芸術表現特殊講義F	Artistic Expression Special Lecture F	2	U-01-CUA-3-04	
	3	芸術表現法A	Artistic Expression Method A	2	U-01-ART-2-01	
	5	芸術表現法B	Artistic Expression Method B	2	U-01-ART-3-01	
	6	芸術表現法C	Artistic Expression Method C	2	U-01-LIT-3-01	
	5	グローバル・アートA	Global Art A	2	U-01-CUA-3-05	
	4	グローバル・アートB	Global Art B	2	U-01-CUA-2-11	
	4	グローバル・アートC	Global Art C	2	U-01-CUA-2-12	
	4	グローバル・アートD	Global Art D	2	U-01-LIT-2-01	
	4	グローバル・アートE	Global Art E	2	U-01-CUA-2-15	
	3	グローバル・アートF	Global Art F	2	U-01-CUA-2-13	

	4	グローバル・アートG	Global Art G	2	U-01-CUA-2-14	
	3	アート・マネジメントA	Art Management A	2	U-01-ART-2-02	
	5	アート・マネジメントB	Art Management B	2	U-01-ART-3-02	
国際ツーリズムプログラム	3	観光社会論	Tourism and Society	2	U-01-TOU-2-01	ITP科目☆
	4	ホスピタリティ論	Hospitality Studies	2	U-01-TOU-2-02	ITP科目☆
	4	観光心理学	Psychology and Tourism	2	U-01-TOU-2-03	ITP科目☆
	3	国際観光論	International Tourism	2	U-01-TOU-2-04	ITP科目☆
	3	観光文化論A	Tourism Culture A	2	U-01-TOU-2-06	ITP科目☆
	3	観光文化論B	Tourism Culture B	2	U-01-TOU-2-07	ITP科目☆
	5	京都観光学A	Kyoto Tourism Studies A	2	U-01-TOU-2-08	ITP科目☆
	3	京都観光学B	Kyoto Tourism Studies B	2	U-01-TOU-2-09	ITP科目☆
	4	文化・観光政策	Culture and Tourism Policy	2	U-01-TOU-2-05	ITP科目☆
	2	旅行の法律	Tourism Law	2	U-01-TOU-1-02	ITP科目☆
	2	旅行の契約	Tourism Contracts	2	U-01-TOU-1-03	ITP科目☆
	3	国内旅行の実務	Domestic travel practice	2	U-01-TOU-2-10	ITP科目☆
	3	海外旅行の実務	Overseas travel practice	2	U-01-TOU-2-11	ITP科目☆
共通	3	グローバル時代のキャリアデザイン	Career Design in Global Era	2	U-01-CAE-2-01	★
	3	国際文化学特別講義B	IC Special Lecture B	2	U-01-ICC-2-02	
	1	Cultural Adaptation (RISE)	ー	2	U-01-CAE-1-03	留学認定科目
	1	Global PBL (RISE)	ー	2	U-01-CAE-1-04	留学認定科目
	1	Social Civic Engagement (RISE)	ー	2	U-01-CAE-1-05	留学認定科目
	1	Applied Cultural Adaptation (RISE)	ー	2	U-01-CAE-1-06	留学認定科目
	1	Advanced Global PBL (RISE)	ー	4	U-01-CAE-1-07	留学認定科目

■フリーゾーン（グローバルスタディーズ学科提供科目）

分野	配当セメ	科目名	科目名（英文）	単位	ナンバリング	備考
グローバルスタディーズ学科提供科目	3	会話分析入門A	Introduction to Conversation Analysis A	2	U-02-LIN-2-01	
	3	会話分析入門B	Introduction to Conversation Analysis B	2	U-02-LIN-2-02	
	5	心理言語学	Psycholinguistics	2	U-02-LIN-3-01	
	6	応用言語学	Applied Linguistics	2	U-02-FLE-3-02	
	3	Contemporary Literature	Contemporary Literature	2	U-02-LIE-2-01	
	3	国際関係入門	Introduction to International Relations	2	U-02-INR-2-01	

	3	Introdiction to Sociolinguistics	Introdiction to Sociolinguistics	2	U-02-SOE-2-01	
	4	Introduction to Cultural Anthropology	Introduction to Cultural Anthropology	2	U-02-CUA-2-01	
	3	グローバリゼーションとアフリカ	Globalization and Africa	2	U-02-ARS-2-02	
	4	グローバリゼーションと東アジア	Globalization and East Asia	2	U-02-ARS-2-03	
	3	グローバリゼーションと南アジア	Globalization and South Asia	2	U-02-ARS-2-04	
	4	グローバリゼーションとヨーロッパ	Globalization and Europe	2	U-02-ARS-2-05	
	3	グローバリゼーションとラテンアメリカ	Globalization and Latin America	2	U-02-ARS-2-06	
	5	国際政治経済学	International Political Economy	2	U-02-POL-3-03	
	3	異文化間コミュニケーション論	Intercultural Communication	2	U-02-LIN-2-03	
	6	言語教育政策論	Language Education Policy Studies	2	U-02-FLE-3-03	
	7	英語教育特殊研究	Teaching English as a Foreign Language	2	U-02-ESS-4-01	
	5・6	Career English	Career English	2		単位読替用
	3・4	Critical Reading	Critical Reading	2		単位読替用
	3	Study Abroad Project A	Study Abroad Project A	6		単位読替用
	4	Study Abroad Project B	Study Abroad Project B	6		単位読替用

（注1）各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年･セメスターであれば受講可能です。（一部例外あり）

（例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能）

（注2）上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

詳細はWeb履修登録画面で確認してください。

（注3） ★☆は、国際学部としてキャリア教育科目として位置づけている科目です。

★キャリア啓発科目【進路動機付け科目】…キャリア意識を醸成する講義を行います。

☆キャリア形成科目【進路選択支援科目】…進路選択を支援する講義を行います。

★第2学期（後期）入学生の「学年」と「科目の学年配置」について

9月入学の学生は、入学の翌年度も学年表示は1年次となります（つまり、1年次を1年半続けることとなります。これは年度の途中で学年の進行ができないためです）。

ただし、4月入学と同様に、入学の翌年度は2年次配当の科目を登録･履修することが可能です。

（例：入学の翌年度も1年次だが、開設科目一覧の「2年次」配当の科目が履修可能）

ただし、「外国語」は、先修制のため、上記とは考え方が異なります（「先修制」参照）。

【6】卒業論文・卒業制作

卒業論文とは、大学での学びの集大成として、3年次から所属する演習（ゼミ）の授業を通じて、学生自らが設定したテーマで執筆する学術論文のことです。ゼミによっては、卒業論文の代わりに卒業制作（表現作品の制作）も認めています。
それまでの授業等で身につけた知識やスキルを最大限活用し、担当教員の指導と助言を受けながら、自らの研究成果を論文あるいは制作物としてまとめます。テーマ設定～資料収集と分析～執筆（制作）という過程で多くの時間と労力を要しますが、やり遂げれば大きな達成感と自信を得られるはずです。
卒業論文を作成するにあたっては、4年次第1学期（前期）に「卒論演習Ａ」（3単位）、4年次第2学期（後期）に「卒論演習Ｂ」（3単位）を履修します。卒論演習Ａを履修するには、「専門演習Ｂ」（2単位）を3年次第2学期（後期）に修得（合格）している必要があります。
その他卒業論文に関する詳細については、ゼミ選択に関する学内説明会やポータルサイト等で別途お知らせします。

１．執筆および提出について

① 卒業論文は文書作成ソフト／アプリ（Microsoft Word等）で執筆するものとします。卒業制作の場合は、制作の意義･意図･過程等をまとめた報告書（制作ノート）を、同様に文書作成ソフト／アプリで執筆し成果物と併せて提出します。
【卒業論文／制作ノートの書式】
･用紙はA4サイズ、白の普通紙とします。
･日本語で執筆する場合、1ページあたり1000字（40字×25行）の設定とします。
･外国語で執筆する場合、行間をダブルスペースとし、見やすい字数となるよう設定します。
･本文フォントは明朝体（和文）およびTimes New Roman（英文）を基本とします。
･フォントサイズは10.5ポイント～11ポイントとします。
･余白については標準的な設定とします（20mm～30mm程度）。
② 卒業論文／制作ノートは、日本語または指導教員が認めた外国語で執筆し、卒業予定者自身のオリジナルなものに限ります。他者が執筆した文章やデータ等を引用する場合、必ず引用箇所･出典を明示し、剽窃（盗用）とならないように注意してください。
③ 卒業論文／制作ノートは個人で執筆（単著）します。ただし卒業制作については、指導教員が認めた場合、共同制作が認められることもあります。共同制作の許可基準や具体的な方法等については、指導教員の指示にしたがってください。
④ 卒業論文の長さは、本文で12,000字以上～20,000字程度とします（日本語の場合）。
卒業論文を英文で書く場合、本文で5,000words以上～7,500words程度とします。その他の外国語で書く場合は指導教員の指示にしたがってください。
⑤ 制作ノートの長さは、本文で5000字以上（日本語の場合）とします。英語およびその他の外国語で書く場合の字数については、指導教員の指示にしたがってください。
⑥ 卒業論文／制作ノートには、本文のほかに、学科が指定する書式の表紙、要旨（600字以内）、目次、参考文献をつけます。本文以外については上記④⑤の字数には含めません。
⑦ 指導教員が認めた場合、卒業論文／制作ノートに加えて、各種記録メディア（SDカード、USBメモリなど）に保存したデータや造形物を参考資料として提出できます。ただし、これら参考資料やその説明文等は本文の字数には含めません。
⑧ 卒業論文の具体的な提出期限や提出方法については、詳細が決まった段階で「卒論演習Ａ･Ｂ」の授業やポータルサイトを通じてお知らせします（例年、4年次の12月上旬～中旬が提出時期となっています）。不明な点があればCampus HUBまたは指導教員に確認してください。

２．評価方法および注意事項

卒業論文および卒業制作は、国際文化学科が定める評価基準（評価ルーブリック）にもとづき評価されます。評価ルーブリックは、「卒論演習Ａ」または「卒論演習Ｂ」の授業を通じて事前に公表します。執筆および制作にあたっては、評価基準が意味するところを十分理解し、高い完成度を追求することが求められます。評価基準の詳細については指導教員に確認してください。

★注意事項★

- 卒業論文および卒業制作において剽窃が認められた場合、「卒論演習Ｂ」を無効扱いとし、当該学期に履修登録した全科目の単位認定をおこないません。
- 「卒論演習Ａ」または「卒論演習Ｂ」が不合格となった場合、卒業修了要件を満たすには、次年度に同じ科目を再履修するか、代わりに国際文化Study Project（Ａ～Ｄ）を修得して合格する必要があります。

その他

国際学部グローバルスタディーズ学科長期留学に係る取扱内規

制定 令和3年2月9日

（趣旨）

第1条 この内規は，国際学部グローバルスタディーズ学科生の長期留学について，必要な事項を定める。

2 この内規に定めのない事項は，学生外国留学規程の定めによる。

（定義）

第2条 この内規における留学とは，次の各号に掲げるものとする。

（1）提携留学

（2）交換留学対象校は別に定める。

（留学の要件）

第3条 留学をする者は，次の第1号及び第2号の要件を満たすとともに，留学年度の年次において，第3号から第6号のいずれかの要件も満たしていなければならない。ただし，要件を満たしていない場合でも，国際学部教授会が留学が可能であると判断した場合には，留学を許可することがある。

（1）本学に1ヶ年以上在学していること。ただし，3年次編入学生については，本学における在学期間を要件としない。

（2）1年次配当英語科目のうち12単位以上を修得していること。ただし，2年次前期派遣者は6単位以上を修得していることとする。

（3）2年次生は，1年次終了時に卒業要件に係る単位のうち，20単位以上を修得していること。

（4）3年次生は，2年次終了時に卒業要件に係る単位のうち，40単位以上を修得していること。

（5）4年次生は，留学前年度までに卒業要件に係る単位のうち，60単位以上を修得していること。

（6）直近の2学期間（休学又は留学していた場合は直近の在学2学期間）に卒業要件に係る単位のうち，20単位以上を修得していること。

（手続き）

第4条 提携留学出願者は，必要な書類を整え，国際学部長宛に申請しなければならない。

2 申請書類は，次の各号に掲げるものとする。

（1）留学生願書（留学計画書，留学誓約書等を含む。）

（2）成績証明書

（3）留学先希望調査書

（4）健康診断証明書

（5）留学先大学受講科目希望調査票（留学先の学部科目を受講する者のみ）

（6）留学先大学の求める語学スコア（写し）

（許可）

第5条 グローバルスタディーズ学科主任は，書類審査及び面接試問により，提携留学出願者にとって留学が有益であると判断したときには，これを国際学部教務委員会及び国際学部教授会に提案し，留学の可否を審議しなければならない。

（単位認定）

第6条 留学の単位認定は，国際学部海外留学等の単位認定に係る取扱内規の定めによる。

（事務）

第7条 この内規に関する事務は，国際学部教務課がおこなう。

付則

この内規は，令和3年3月4日から施行し，令和3年度前期派遣者から適用する。

留学サポートデスクについて

グローバル教育推進センター（和顔館1F）には、国際学部留学サポートデスクがあります。
留学経験のある日本人アドバイザ4名が担当しており、様々なサポートをおこなっています。
わからないこと、不安なことがあれば、何でも気軽に相談してください。







留学アドバイザーからのメッセージ

日本を離れ、新しい世界に飛び込むのはとても勇気がいりますよね。留学を実現するために必要なこと、それは情報収集です。留学準備の段階で不安を少しでも解消できるように、留学する時期、国や学校の選び方、留学願書の書き方、学生ビザ等各種情報を提供しています。また、留学前のサポートだけではなく、留学中の質問にメールで答えたり、留学後にはみなさんの自主的な語学勉強会をお手伝いしたりすることで、留学前から留学後まで一貫したサポート体制を提供しています。忘れられない留学経験を作り上げ、将来のステップになるよう、私たちが全力でサポートします！

学生支援・対応の方針（国際学部教務課）

1．学生支援の方針

1）学生が相談しやすい環境を提供します

2）学生の意見を取り入れる体制を構築します

3）国際交流を経験できる機会を積極的に設けます

2．学生対応の方針

1）常に丁寧かつ適切な対応を心がけます

2）ルールを守った学生を第一に考え、締切日等に遅れた学生への対応は、特別な理由が無い限り認めません

3）ルールや規則を破った学生に対しては、教育的効果が上がるよう継続した指導を行います

4）教員や他部署と連携を取り、効果的な対応を行います

5）留学生に関しては、分かりやすい日本語による対応を心がけます